

始



基督教童劇集

石黒ツギ子著



てりよに者著同

基督教兒童劇集

四六判上製
寫真版二枚
コットン紙
定價九十錢

一、サロバの喜び
二、公園のクリスマス
三、幸を見出した椰子の木
四、寄附の誕生祝ひ
五、狼の兄弟

七、一枝の花
八、こゝろの嫁入
九、みそさゝいの子猫
二〇、巢の中に行つた子猫
二、訪問に行つた子猫

續基督教兒童劇集

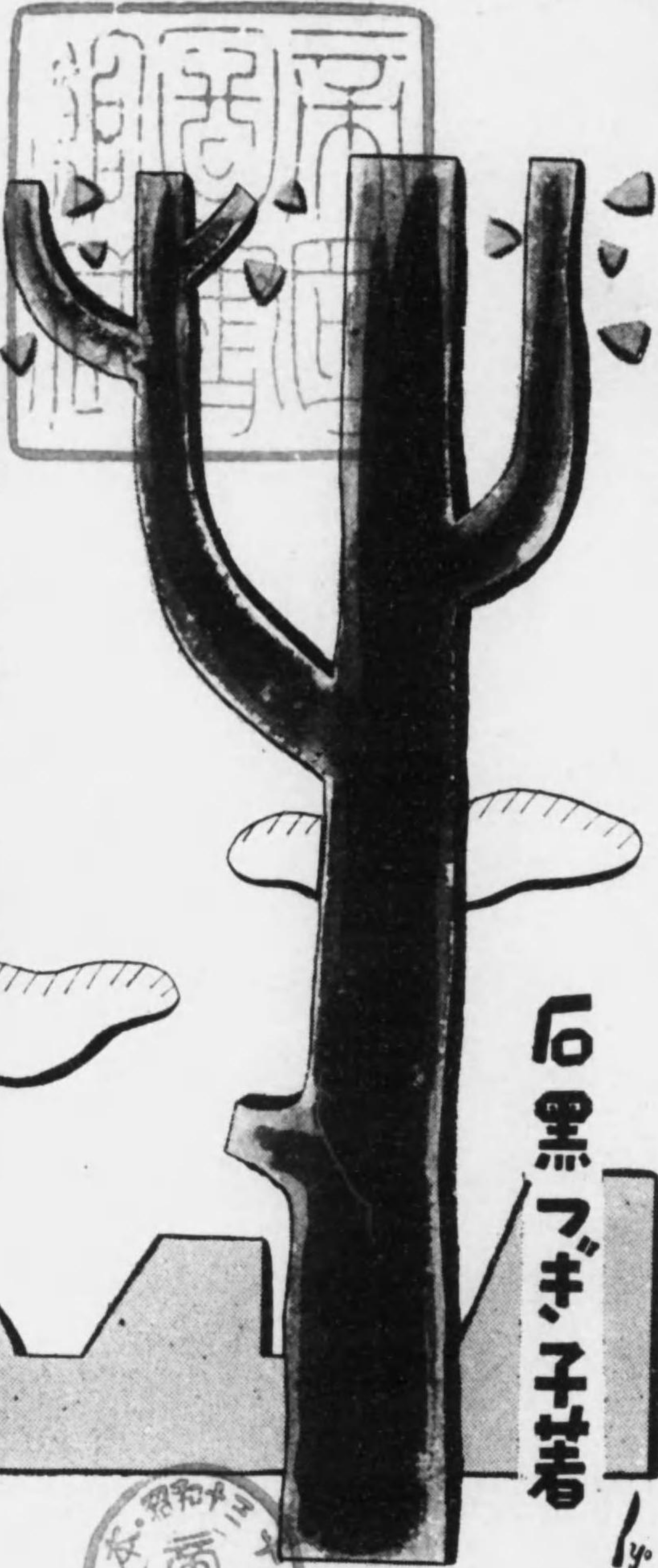
四六判美裝
寫真版二枚
舞臺裝置圖
六講一五枚
定價一五圓

一、少年の歌
二、ねねのお船
三、ねねの物語
四、白百合の願ひ
五、白百合の願ひ
六、白百合の願ひ

七、聖夜の
八、お山のクリスマス
九、お山のクリスマス
一〇、お山のクリスマス
二〇、お山のクリスマス
三、お山のクリスマス
二、お山のクリスマス
三、お山のクリスマス

特234
759

基督教童劇集



石黒フミ子著



序

(イ) 逢ふほどの子供たちに

「劇を観るのは、好きであるか？」と聞いてみるなら、凡てといつてよいほど多くの子供たちは、顔をほころばせながら、「どうしてそんな解り切つたことを聞く？」と反問するに違ひない。劇は人類の原始時代から、生みおぼえられて來た思想表現の形式であり、又現代のあらゆる階級人の心を、最も多く捉へてゐる藝術形式である。

「人間は、抽象的概念に殉ずることはない。」と人がいつた。さうだ、底深く彫られた魂の感動こそ、思ひ設けもしなかつた高さにまで、人の魂を飛躍させ更新させる唯一の鍵である。單に言葉のみの一方形式によつて、思想をつたへられることより、畫、音樂、舞踊、詩、言葉、生きた人間の動き、光の饗宴、あらゆる藝術が、立體思想となつて、人の魂に迫つてゆく劇的感動こそ、我等宗教人の、持物の半ばを賣つても、買ひもどしにゆかなければならない價高き眞珠なのではないか。

(ロ) 子供達は動いてゐる。歌つてゐる。踊つてゐる。眞似てゐる。この子供のもつ特性を動きながら、歌ひながら、踊りながら、眞似ながら、高い宗教經驗にまで引つ捉へてゆくキリスト教劇こそ、不

振をなげかれてゐる今の世のS・Sに、若いいのちをもらひあげてゆく、大きな役割を果すべき第一のものであり、時代の大嵐にもみあつて、S・Sが、堂々と進軍してゆく、優れた進軍譜ではないか。

(イ)の見解を具體化するために、大人や子供が、交りあつて、子供に観せるために演ぜられる劇。

(ロ)のために、子供自身が演ずる劇を、この劇集には修めた。修めたものの中の「父の看病」、「きやべつの葉」、「お山のクリスマス」は、外國の物語を、私の手で脚色したもの、「今日の馬槽」善きサ「マリア人」は、Shoter Bible Plays. によつたもの、あとは、創作である。

キリスト教劇第三集を、上梓するにあたり、十年近くも歩みつゞけて來たこの道を思ひかへして今、涙がじんはりと胸にしみる。其れは、理想にゆきつくには、あまりに貧しい過去の歩みへの恥ぢらひの涙であり、其れにしても、弱いと人のいふ女の足で、何者をもふりかへらず、がむしやらにこの道を歩みとほして來た、己をいとほしむ涙でもある。私は、この涙の一滴をも惜しんで、明日の旅の養ひとなし、この新らしく生れる劇集をけいきとして、もつと雄々しく強くこの道に前進しようと思ふ。

終りにこの集を公けにするために、御好意をよせて下さつた聖公會出版社、須貝先生、装幀をして下さつた友、阿貴良一氏、出てゆく本をめぐるであらう、あらゆる友情に、心一ぱいの感謝をさ

上げて、ペンをおきます。

昭和十三年秋

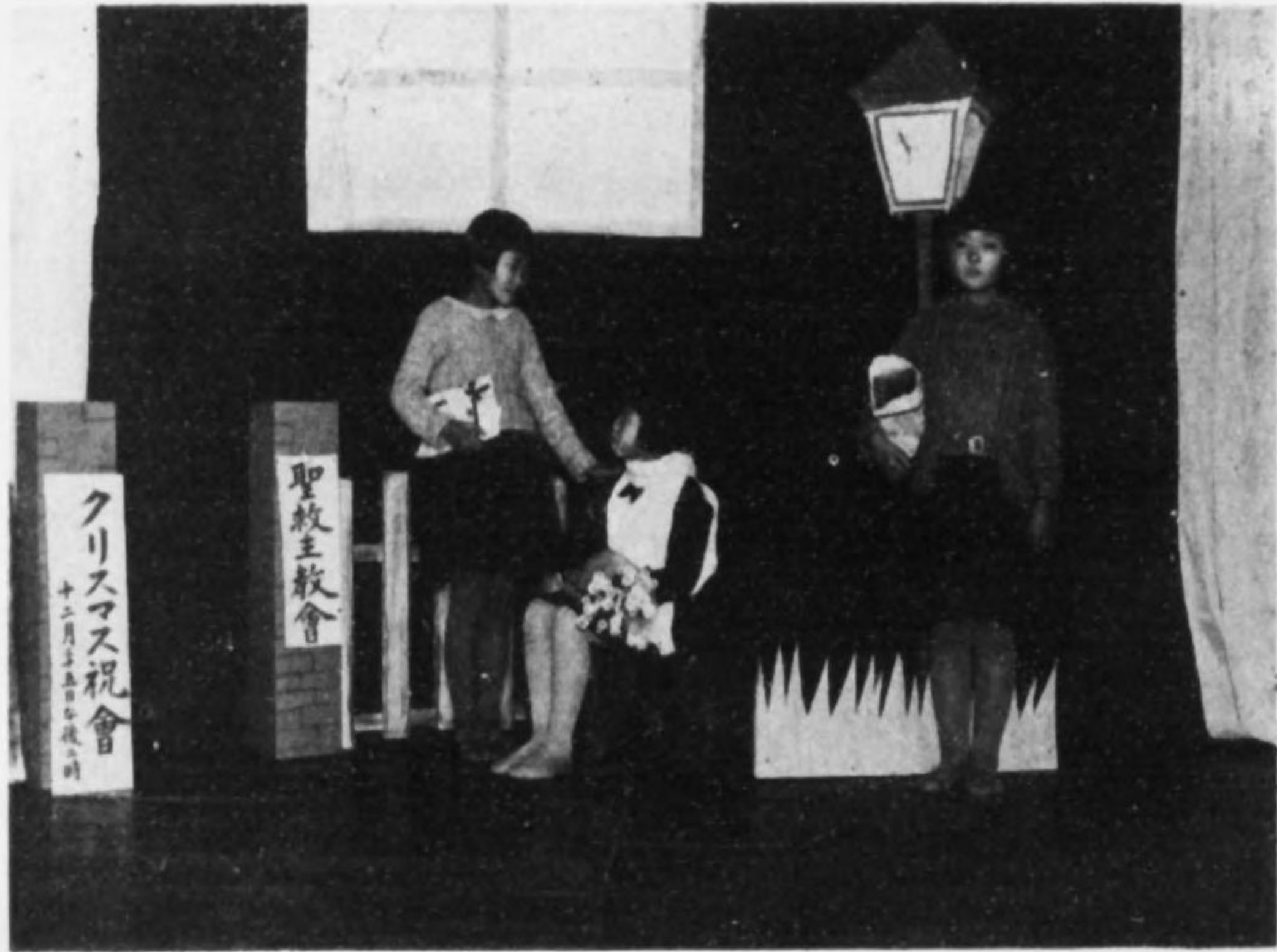
著者

目次

一、小さいサンタさんたち……………	一
二、今日の馬槽……………	三
三、もろびとこぞりて……………	二
四、お山の歌……………	五
五、おなじ主に……………	四七
六、おまもり……………	五七
七、ねんころろ……………	六九
八、きやべつの葉……………	七

九、父の看病……………八七
一〇、善きサマリヤ人……………一〇三
二、方舟……………一二五

小さいサンタさんたち



んめいたぶ「ちたンサタンサいさ小」

出る人

花賣りの姉弟。

日曜學校の生徒たちと先生。

通行人など——。

時

十二月二十五日の夕方

處

教會前の通り。

通りに面して、教會の窓と門。門には「クリスマス祝會、十二月廿五日、午後二時開會」などの立札、時々教會から、祝會らしいのしげな歌聲。通行人二三忙がしさうに通り過ぎるなど。暫くして、花賣の姉弟が賣り残した花束少々をもつて、話しながら出る。

姉弟

姉ちゃん、今日は、いゝ日だつたねえ

え、母ちゃんも、きつとよろこぶわ、母ちゃん、今日もお晝から、お咳がひどかつたかしら？、でもあのやさしいをばさんのこと話したらきつと喜ぶわ

弟 姉 弟

五錢の花束買って、五十錢もくれたんだもの、あんな人ないね。ねえ、姉ちゃん、五十錢もあれば、何だつて買へるだらう？

そりア買へるわ、キャラメルだつて——母さんの咳薬だつて、三ちゃんのたこだつて——たこ？ うれしいなア僕、たこかつて貰つて、お空に、あげるんだ、ぐんぐんぐんぐん、お空にのぼつてく、ぐんぐんぐんぐん、のぼつてのぼつて、星までゆくといふなア、お星様と僕のたこと、お話するんだい、みつちやんだつて、よつちやんだつて、そんなたこもつてやしないぞ、うれしいなア

教會の中から、拍手とざわめき

三ちゃん、このお家、何かやつてるわ

何だらう、僕、探検して来よう。(背のびしてみる、やがて石をみつけて、それにつてみて)

姉ちゃん、お旗が、たくさん天井からぶらさがつてゐるよ

(石に並んでのつて) お祝ひね、きつと、あ、歌つてるわ

やアすばらしいや、おもちややお菓子のなつてる木が、ほらあそこ——

あれは、クリスマスツリーといふのよ

弟 姉 弟 弟 姉 弟 姉 弟

六かしい名だね、おぼえられやしないや、歸つたらあの木のことを、母さんにも話してやるんだ

あら、小つちやい子が、ようちやん位な子が、たくさん並んで、お歌をうたひだしたわ

二人は中からながれるリズムにのつて體をゆする、歌が終ると、つりこまれて拍手。

あら、あのちびさん、歸り道をまちがへて、ひとりでこつちに来るわ、あ、よかつた、先生がつれかへつて下さつたわ、

ざわめきと拍手

やアまつかな、おちいさんだ!

あれは、サンタクロースさんよ、煙突からおりて来たのよ

煙突から? だけど、ちつともすゝがついてないねえ、あ、もつて来た袋をあけたぞ、で

た! 飛行機だ!

おじやみよ、お人形よ!

あ、たんだ、たんだ!

きれいな箱ねえ、みんな貰ひにゆくわ、にこにこして——

弟

姉ちゃん、僕たちも、ゆかうよ。

姉

だめよ——私たちに、くればしなわね、もう歸りませう

弟

だつて——つまらないなア

姉

それより早く歸つて、母さんに今日のお話して、よろこばせてあげなくちやね、そしてた

弟

こぢやないの——ほらぐんぐんぐんぐん、のぼつてのぼつて——

姉

うん、お星様に、あひにゆくんだい。——その方が、僕のたこの方が、よつぽどいゝやい！

弟

と歩きかける、姉はポケットに手を入れて、さぐるが、お金がみつからない、

姉

三ちゃん 大變！

弟

えつ！

姉

お金がないの

弟

五十錢玉も？

姉

(ポケットを探りつづけて) ええ、外套のポケットが、破けてゐたのね、そこからぬけたのよ、姉ちゃんは、あの四つ辻まで、さがしにいつて来るから、三ちゃんは、ここいらをさがしててね、

姉は入る、弟はあちこちを探すが、見あたらない、日が暮れて、街燈に灯が点く。弟はしやがんで泣く。門の中から、どやどやと日曜學校の生徒が出てくる。

生徒一

あら、あなたどうしたの、どうして泣いてるの？

弟

(生徒一の顔をみて)……

生徒二

何か悲しいことがあるのね、いつてごらんさい、私達にできることだつたら、何でもしてあげるわ

生徒三

ね、どうしたの？

弟

お花を賣つてもうけたお金を、みんなおとしてしまったの

生徒四

まア かはいさうに、みんなでいくらほど？

弟

五十錢玉と三十八錢ばかり——

この頃から、日曜學校の先生が、教會の窓をしめに來て、この子供達をみとめ、じつとみてゐる。

生徒一

ちア この五十錢玉を、あげるわ

生徒二

光子さん、そのお金あげて、いゝの、お母さんのプレゼントに、何か買つてあげるんだつて、つい先まで、とても喜んでゐたぢやないの

生徒一 いゝのよ、いゝのよ、お母さんには、わけを話せば、かへつて喜んでもらへるわ

生徒五 私、十錢あげるわ

生徒三 私も十錢——

生徒皆 私も私も——

とみんなで、お金だの、お菓子だの、プレゼントだのを、弟のひざの上につむ、日曜学校の

先生は、それをみてうれしそうに窓をしめて入る

生徒一 まあよかつたこと、あなたのもうけたお金よりも、多くなつたわ

弟 ありがたう、ぼく——ぼく——

生徒三 あら、藤野先生が、わらしたわ、きまりが悪いから、歸りませうよ

生徒二 ちアさよなら！

弟 ありがたう！

皆入る。姉が出て来て

姉 あつたのよ、三ちゃん、走つてると、ちやりんちやりんで、外套のすそで、音がするの。

お金がポケットの破れからぬけて、外套のすそまで——（弟のひざの上につままれたプレゼント

をみて）あつ、それはなアに？

日曜学校の先生が、これより少し前に出て来て、

先生 何もかも、よかつたですねえ、いゝ日だ、さア、君にたこをあげませうね、

弟 やアたこだ!!! 大きいぞ!

先生 （ポケットをさぐつて）お姉さんには、私がかくち引であてた、おじやみ——

姉 あのう、（弟のひざにつままれたプレゼントをさして）あれもあなたが、みんな下さつたの？

先生 いゝえ、教會の日曜学校の子供さん達が、あなたの方に、クリスマスの喜をおわけしたので
す。今日は、世界中の子供の、うれしいクリスマスですからね、さ、おそくなつたら、い
けない、お宅までお送りませう。（教會からもろびとこぞりての歌が聞える）おや、教會で
は、まだ誰かど残つて歌つてるぞ、私たちもまけないで、歌つてゆきませう、もろびとこ
ぞりて、いゝですか私についてお歌ひなさい、もろびとこぞりて——

歌ひながら入る。

△舞臺面は、男の子の適当な子がなかつたので、女の子にかへたのです。さういふ時にはセリフも、よきやうにかへて下さい。

今日の馬槽

出る人

天使の衣を着た子供
博士の衣を着た子供
羊飼の衣を着た子供
捧物を持った子供
ほかに合唱隊

處

教會の聖壇か講壇

聖壇の中ほどに馬槽。馬槽には馬草が、一ばいに入れてある。天使が出て来て、

天使一 ここに、馬草で一ばいになつた、馬槽がおいであります、

天使二 あれ、向ふから、子供たちの、愛らしい歌聲が近づいて來ます。しばらくここで、子供達
のくるのをまぢませう。

教會の入口から中央の道をとほつて、子供達が歌ひながら、列を作つて出て來る。はじめに
羊飼の衣を着た子供達、次に星を持った三人の博士、捧物をもつた子供達、それから

合唱隊の順に

「進め子供らいさすゝめ

幼児イエスのおん前に

すすめいさいさすすみゆき

羊飼ひのごと主にまみえん

すゝめ輝く星を見て

博士のごとく主ををがまん

行列が馬槽を中央に、程よく位置をとつた時に、

天使一

地上の花、愛らしい子供達、あなた方はここで何をなさるの？

羊飼

昔幼児イエス様を拜むために、馬槽をたづねて来た羊飼ひのやうに、私達はここに來まし

た。そしてこのクリスマスに、主キリストの愛が私達の心に宿るやうに、お祈りに來たの

博士一

私達はすつと昔、遠い東の國から、星に導かれて、ベツレヘムの馬槽をたづねた博士達の

やうに、ここに來ました。

博士二

このうれしいクリスマスの日に――

博士三

光が、私達の心をてらすやうに、祈るためです。

天使一

博士や羊飼ひがイエス様をみたのは、二千年も昔です。二千年後の今、その博士達はどこ

子供皆

主イエス様のみあとに、したがふ人がその人です。

子供一

昔々、イエス様は、粗末な馬槽にお生れになつて、凡の人を愛し給ひました。そして私達

にも、隣人を愛せよと、お命じになりました。それで私達は、このクリスマスに、誰かに

子供二

これをさしあげて、お喜ばせたいと思ひます。
(靴下をあげて) 私達のクリスマスの喜と、この中のお菓子と手袋を、ほかのお友達に、お

子供三

わけしたいと思ひます。
(靴下をあげて) 私はこの中に、人形をもつて來ました

子供四

(玩具をあげて) 私は玩具を、もつて來ました。

天使一

地上の花、愛らしい子供達、もしもあなた方が、愛をもつておいでなら、其の捧げ物は、

博士や羊飼ひの捧物とおなじです。さアおひさまづきなさい。そして謙遜に、あなた方の

捧物が、クリスマスの祝福をもたらすやうにお祈りなさい。

みなひざまづいて

「われらの父なる神よ

世界中の子供のために

幼児イエスをくだしたまひし神よ

われらの捧物が、喜をもたらすやう

われらの愛が、世の悲しみを除くやう

主よわれらを、愛の道に歩ませ給へ

主よ愛の道に導きたまへ アーメン。

捧物をもつた子供達は、馬槽にこれを入れる、クリスマスメロデイのうちに暮。

△降臨節のはじめに、有志の子供たちに、一對の靴下をあたへたらよい。そして其れにそれぞれクリスマスのお祝のできない子供の名前を書いておく。そしてクリスマスの前週、おもちゃや靴下手袋帽子、なんでも一ぱいに入れてもつて來させて、それを捧げさせる。

△歌「進め子供ら」は「みよや十字」の節、祈りの歌は、古今聖歌のチャントに、あてはめてうたふ。祈

りの歌をよして、クリスマスメロデイの中に、祈つてもよい。

△天使は凡ての人よりたかいたところに立ち、言葉を發する時は、右手をなゝめ右にあげて、祝福する如き姿で話しはじめたらよい。

もろびとこぞりて

出る人

美代子

隣室の畫家

みどり

美代子の母

時

クリスマスの夜

ばめん

アパートの一室

奥に窓、この窓は、露路に面してゐる。窓ガラスがわれて、紙でつくろひ張りしてあるがその紙が少しおちかゝつてゐる。下手に廊下、部屋から廊下に通ずるドアの中央に、電燈。電燈の下で美代子は、古びた人形二つをだして、着物をきかへさせてゐる。そばには火鉢湯氣のたつやかんがかけてあるなど――

美代子

まあちゃんのおしたくは、これでできました。これで、きつといゝクリスマスが、迎へち

れるわ。こんどは、のんちやんの番ね（人形の箱物をひろげて）あらら、大變だわ！のんちやんのおべべ、ところどころに、穴があいてるわ、虫が、いたづらしたのねえ、こまつたわねえ。切角のクリスマスに、穴のあいたおべべをきるなんて——え、なアに？なるほどねえ。レースのおべべだと思へばい、レースの穴だと思へば、いゝつて——さうね、それもさうだわ、ちあ、さう思ふことにきめた！では、のんちやん、最新式のレースのおべべを、おめしかへ遊ばせ（人形に着せてしまつて）ええ、それでいゝわ、でも、あなたのお顔、この頃だいぶガサ／＼になつたわねえ。地がみえてしまつて、さうさう、いゝことがあるわ。おとなりの畫かきさんにいたゞいた、繪具で（繪具を箱からだし、手でほゝに色をぬり）ほら、こんなに化粧したら、生き生きして來たわ、まるでのんちやんが、はじめて美代子のお家に來た晩みたい——あの夜も、やつぱりクリスマスだつたわねえ——（指で數へてみて）去年、おとし、早いものねえ、もうおとしになるワ、おとしまでは、かかさずに、サンタさんが、新しいお人形をもつて來て下さつたけれど——サンタさんぢやない、あれは父さん母さんだつたのねえ、美代子がつと幼さかつた時は、ほんとのサンタさんが、白いおひげに、赤いおべべ、煙突からおりてくると思つたのよ。

あの頃は父さんも生きてゐらしたし、あの頃のクリスマスのことを今から考へると、まるでさきみだれたお花園のやうに、たのしく思ひだされるわ。もちろん、母さんも、あの頃は働きにゐらつしやらなかつたし、私だつてお足が、いたまなかつたし——でも、でも——今だつていゝのよ。世界一いゝ母さんが、私のために働いて下さるし、夜のおるすゐだつて、まあちやんやのんちやんと一しよにゐられるものね。それに今夜は、私たちのクリスマス祝會をここでするんだものね。昔のことを思ふことなんかないわ。よくをいへば、母さんが、おしごとからなるだけ早くかへつて、お歌を一しよにうたつてもらふこと。おとなりのお部屋の畫かきさんが、私たちのクリスマスに、お話して下さること——それだけだけどね

ラチオが開える

美代子

あ、歌つてる、歌つてる！ほら

つきよしこの夜

光照りきぬ

エスは來ませり

み子は來ませり

いはへ主を

うたへ主を

美代子 さアさア、まけずに、歌ひませう。プログラム一、おうた「聖しこの夜」

とラヂオのメロディを追つて、うたふ。みどりは、このころから、露路にたつてゐて、美代子のアパートの奥の窓の紙のやぶれめから、室の中をのぞいてゐる、美代子は、しらない。

美代子 お歌は、をはりました。プログラム二、お祈り。さアお祈りの支度ですよ。まあちゃんものんちやんも、お手をそろへて、はい、よろしい。ではお祈り「かはいみどり子イエスの御誕生なされたことを、お祝ひいたします。あなたは、天のお父様の、私たちへの愛のプレゼントとして、二千年の昔、この世にお降り下さいました。その時から、この世は、いつまでも消えない光に輝きだしました。困つた人は道を見出し、淋しい人は、あなたの愛に心の住ひをみつめました。このあなたの御誕生を、なんとおほめしませう。おほめする言葉を、しりませんけれど、けれどこの心をおうけ下さいまし、アーメン。」みんなよくお祈りできたわねえ。お祈りしたら、なんと心が、はればれするんでせうねえ。ほ

んとに、この世の中にお祈りをしらない人があるなんて、うそみたい、そんな方は何をもたないより氣の毒ねえ。

隣室の畫家、室のドアをあける。みどり顔をひっこめる。

畫家 はいよ、

紙包みをボンとなげる。

美代子 それなアに？

畫家 貧しい似顔ゑかきの、クリスマス・プレゼント、

美代子 (へ包をとつて) ありがと、なにかなア——あけてもいゝこと？

畫家 どうぞ。

美代子 ひやア！ アンパンね。アンパンね。私たちのクリスマスケーキ、アンパンさん、ようこそ——ねえ、ゑかきさん、おたのみ、

畫家 六かしくなつたぞ、なんのおたのみ？ できますことなら——

美代子 今ね、まあちゃんとのんちやんと私とで、クリスマス祝會を、はじめてゐたの、そしてね

いま、お歌とお祈りがすんだところなの、ねえ、なんかお話ししてよ、ゑかきさん。

畫家 まで、しばし、一寸ね、かきこんでくるよ。おなが、このとほり、ペコペコでござる。

美代子 あ、さうだつたの、ちあ早くね、

畫家 いゝともさ、かきこみながら、うまいお話を考へてくるよ。

美代子 まつてるわよ。

畫家 入る。そろそろと、みどり又、顔をあらはす。

美代子 私たちのクリスマスも、ますます面白くなるわね、クリスマスケーキはふつて来たし、ね

え、まあちゃんやのんちゃん、お話がはじまるまで、も一つお歌よ。

「もろびとこぞりて

むかへまつれ

久しくまちにし

主は來ませり

主は、主は來ませり

美代子 お歌は歌つても、まだお話がはじまらない。ではプログラム第三、いや第四だわ、第三は

クリスマスケーキ、アンパンの御入來、第四は、聖句暗誦、はじめにまあちゃんから、

ハイ、禮をいたしました。「われは、世の光なり」(拍手) こんどはのんちゃん、ハイ禮「凡て、勞するもの、重荷を負ふものよ、われに來れ、われ汝を休ません、」

もろびとこぞりての歌を口ずさみながら、畫家が入つて來る、

美代子 (拍手) いよ〜お話が始まります! では、プログラム第五、おまちなねの、ゑかきさんのお話です。題は?

畫家 原作は、トルストイ、話者は、貧しき似顔畫家、題は「愛するところに、神あり」

美代子 人形の手を、打あはせながら

美代子 バチバチバチバチ

みどりつりこまれて、窓を、そつとあける。二人氣がついて。家畫は立つて窓のところに行く

畫家 君はだあれ?

みどり あの——ごめんなさい——私——あの——

畫家 心配しなくてもいゝよ、どうかしたの?

みどり このお人形を、あの方に、あげたいと思つて——

美代子 その方にゆく、(思ひなし足をひきながら)そして窓ぎはにこしかける。

みどり ね、これをもらつて下さる？ あなたのクリスマス、とてもたのしいのね、しばらくの間

あなたのたのしいクリスマスを、私までたのしい気持ちで——あとう——ごめんなさいね、立ぎきしたり、お窓をあけたりして、あの——私、お話聞ききたかつたの。

畫家 そんなこと、ちつともかまはないねえ、美いちやん。

美代子 ええ、クリスマスのお祝は、なるたけたくさんで、する方がたのしいんですもの。

畫家 君、さつきまで、泣いてゐたんぢやない？

みどり ええ、母さんから、これがへ人形を示して送つて来たので——つい悲しくなつて——

美代子 えつ、母さんから、お人形を送つていただいて、悲しいつて？

みどり ええ、私、母さん、すきな、でもだめよ、いくらすきでも——

母さんは、私をおいて、いつてしまつたんですもの、お金持のところへ——クリスマスやお誕生日には、きまつて、お人形がおくつてくるわ、でもそれがいやなの、そのたんび、母さんを好きなことが、思ひだされるんですもの。今夜だつて、この母さんからおくつて来たお人形をみたら急に淋しくなつて——だから人形をだいたま、ふらふらと暗い道を来たの。風が私の淋しい心を吹いてくれるかもしれないと思つて——ここまできたら、ここ

で、たのしいお歌が聞えたので、ついつりこまれて——ね、私も、お祈りしないの、教へて下さいね。

美代子 お祈りを！ クリスマスにお祈りお教へする方にあへたなんて、うれしいわ、ねえ、えか

きさん、お祈りしたら、神様がきつとこの方を、よくして下さるわねえ。

畫家 あゝよく、そのよくが、人間の解釋とは、ちがふ事もあるけれど、あなたのために、あなたをしつてるよりも、もつとよくして下さることうけあひだよ。

みどり まア私のしつてるよりもよく！

美代子 お窓から、とんでゐらつしやいよ。

畫家 さア僕が、手をとつてあげよう、そこに、足をかけて。いゝかね？

美代子 一二の三！

窓からみどりとんで入る。

美代子 まアまるで、サンタさんのお話みたいね。クリスマス晩に、窓から入つて来るなんて、いつだか、よんだ御本のなかにあつたわ、サンタさんが、ごちさうをたべすぎて、ふとつちまつて、煙突から下りられなくつて、お窓から来たつてお話——

みどり
では、たいしてふとつてもぬないけど、私、そのサンタさんです。いゝ子のいゝ子の、こ
としのクリスマスプレゼント、はい。

と人形を美代子にわたす。

美代子
ありがたう、サンタさん、ありがたう。なんてかはいゝお人形！（ほゞすりして）ほんと
に、今夜は、うれしいクリスマスね。ねえ、みんなで、お窓から来たサンタさんと新らし
い（もらった人形を示して）このお友だちの歓迎の意味で「もろびとこぞりて」を、うたひ
ませうよ。ね、あなたは、まあちゃんをだいて下さる？（みどりに人形をわたして）あかき
さんは、のんちやんをだくのよ、はい（とわたして）のんちやんのお顔いきいきしてるでせ
う。このあかきさんが繪の具塗つたのよ、うまいでせう。私は、新らしいお友だちをだ
て、さア、ありつたけのたのしいお聲で、いゝですか、三四——

めいめい人形をだいて、うたひはじめる。美代子の母が、仕事から歸つて来る。

美代子
あ、母さん！

母
どうしたの？

美代子
この方、サンタさんよ。

畫家
窓から来ましてね。

美代子
話してあげるわ母さん、ね、——あのね——

——をはり——

○畫家や、母の役は、S・Sの先生で分擔して下さい。これがS・S劇のもつ強味です。

お
山
の
歌



んめいたぶ「歌の山お」

出る人
 しまりすさん
 きつつきさん
 兎さん
 野鼠さん
 茶りすさん
 お歌をうたふ人たち
 時
 クリスマスのおひるから。
 ばめん
 お山の生物さんたちの村です。舞臺にできたら、花道をとほして上手かみてにきつつきさんのお家、
 下手しもてに茶りすさんのお家があります。次のお歌で、幕をあげます。
 ちよろちよろちよろちよろ
 びよんびよんびよん

ちよろちよろ

作曲 石黒つぎ子

ちよろちよろ ちよろちよろ びよん びよん びよん
 たっち たっち たっち たっち ちゅっ ちゅっ ちゅっ
 ちよろ ちよろ ちよろ ちよろ びよん びよん びよん

びよん びよん

作曲 石黒つぎ子

びよん びよん きゃべつ も ほうねん ちや
 はにはが できて くるりとまけ ば
 おいしい きゃべつ ちや ほうねん ちや

よいとな

作曲 石黒つぎ子

よい とナ どっ こい よいよい よい
 かごは よいよい おくりもの
 よい とナ どっ こい よいよい よい

たつちたつちたつちたつち

ちゆつちゆつちゆう

ちよろちよろちよろちよろ

びよんびよんびよん

歌の中頃から、しまりすさんは、どんぐりを入れたおかごをもつて、花道を出て、きつつきさんのお家の前をとほります。きつつきさんが、お窓からそれを見て、

きつつ しまりすさん。クリスマスおめでたう。おでかけですか？

しまり おや、きつつきさん、クリスマスおめでたう、私はこれから、かしの木三本目、木の根町の、茶りすさんのお家に、お見舞にゆくとおめです。

きつつ え？ ちやりすさんをお見舞に？ どうかなたんですか？

しまり え、こないだ、食物をさがしに、里の方へいつた時、わなに足をすくはれておけがをなされたのです。しあはせなことに、わなから足はぬけたのですが、まだまだ、いたむさうです。クリスマスなのに、食物がひろへなくては、お困りだと思つて、お見舞にゆくとおめです。

きつつ

まアさうでしたか。それはそれはお氣の毒、私も何かお見舞をさしあげませう、一寸おまちなさい（引こんで、大きなかぶらをもつて）神様は、こんなおいしいかぶらを、私に下さいました。これを半分、茶りすさんにあげて下さい。

とかぶらをかちつて、半分にして、しまりすさんのおかごにいれます。この少し前から、次のお歌の聲が聞えて、兎さんがでて來ます。きやべつをかついで、

へびよんびよんきやべつも

ほうねんぢや

はにはができて

くるりとまけば

おいしいきやべつぢや

ほうねんぢや

兎さんは二人をみて、

兎さん おやおやおふたりさん、クリスマスおめでたう。

きつつ けいきのよいこと、兎さん。

兎さん ええ、ええ、今年僕のきやべつ畑は豊年でした。みごとなきやべつが、いくつもいくつも
できました。それでその——あの、しまりすさん、おかごをもつて、どちらへおでかけで
すか？

しまり 茶りすさんを、お見舞に——

兎さん では、これを茶りすさんにあげて下さい。いとこのびよん助さんにあげやうと思つてもつ
て来たのですが、びよん助さんには、なに、またあとでもつてゆきます。

ときやべつを、しまりすさんのおかごにいられて、

兎さん はいどなたも、さようなら！

と入ります、

きつつ かごが、重くなりましたね

しまり いゝえ、みなさんの親切を、茶りすさんが、きつとよろこぶでせう、ではさようなら！
きつつ 茶りすさんによろしく

しまりすさんは、かごをかかへてゆくみちで、野鼠さんたちに、あひます、

兄鼠 重さうですね、僕たちのしつぽで、ひいてあげませうか？

弟鼠 お宅までですか？

しまり いゝえ、茶りすさんのお家に、お見舞に、ゆくところですよ。

弟鼠 お見舞？ ねえ、兄ちゃん、僕らも、お見舞をあげやうよ。

兄鼠 それがいゝ、一寸おまち下さい。

と兄弟鼠は入ります。そして人參をもつてでます。

兄鼠 おまたせしました。

弟鼠 これも、なかまに入れて下さい。

とかごに入れて、しつぽでおかごをひきます、しまりすが、あとおしします。次のおうたに

あはせて、ひきます。

「よいとナどつこい

よいよいよい

かごはよいよい

おくりもの

よいとナどつこい

よいよい

やがて茶りすさんのお家につきます。

しまり おかげで、たすかりました。ここが茶りすさんのお家です。

兄鼠 ちア僕たち、ここで――

弟鼠 しつけない！

しまり ありがとう。

茶りすさんのお家の戸を、たたきます。

しまり ごめん下さい、茶りすさん、

ちやり これはこれは、しまりすさん、ようこそ、お入り下さい。

しまり ありがとう、クリスマス、おめでたう、おきすはいたみますか？

ちやり ありがとう、ふしぎに今日はいたみません。

しまり それは何よりですね。神様がなほして下さったのですね。このどんぐりは少しばかりです

が、お見舞にさしあげます。それからこのかぶらは、きつつさんから、きやべつは兎さん

人參は野鼠さんからお見舞です、皆さんから、よろしく、

ちやり ありがとう、ありがとう、みなさんに、どんなにお禮をいつたら、いゝかしら？ ほんと

にうれしいクリスマスだ！

しまり なにかも、神様のおめぐみですから、神様にお禮をいひませう。

二人共ひざまづいて、お禮の祈りをささげます、しばらくして暮あきのときのお歌が、愛ら

しく歌はれてをります。

△凡ての動きを遊戯風に、リズムにのつてして下さい。

△木つつきが、かぶらをかじるところなども、あらかじめかぶらをわつておいて、一寸かじるしぐさをし

たら、われるやうに。

△ぶたいめんのバツクの星は、クリスマスデコレーションとしてはりつけてあつたまゝを使ったので、あ

れはない方が、よかつたのです。

お
な
じ
主
に

出る人

蟹一

蟹二

蟹三

蟹四

蟹五

雀

ほめん

ここは、海邊の砂濱です。砂が七月の朝の陽に、光つてゐます。かるい音楽のリズムのあひあひには、波の音も聞えます。しばらくして蟹たちが、横歩き行進をします。

蟹一

おや？

蟹一が、何かみつけました。

蟹二

なに？

蟹三

なアに？

蟹四

なにがなアに？

蟹五

なにをみたの？

蟹一

あの砂山の松の下に、ほらほら、一晩のうちに、お家がたつたよ。

蟹二

ほんとだ、一晩のうちに――

蟹三

ほんとね。

蟹四

ほんとだ。

蟹五

どうしたのかしら？

蟹一

あ、おんなじ位な人間の子供たちが、何だかお水で、お顔をこすつてゐる。

蟹二

ちやぼく。

蟹三

ちやぼく。

蟹四

こすつてる。

蟹五

あれは、私たちが、朝つから、横へ進め、のおけいこをするやうに、何かのおけいこよ、

蟹一

きつと。
うん、思ひだしたよ。僕母さんから聞いたのだ。あれは、キャンプといふものさ。

蟹二

キャンプ？

蟹三

キャンプ？

蟹四

キャンプ？

蟹五

ちア、キャンプつて、おかほをこするおけいこのことなの？

蟹一

ちがふよ、おかほを、こすることぢやないんだ。一晩のうちに、お家をたてることさ、人間の子供たちは、夏はお休みなんだ。その休みにきれのお家をおかすので、ごちさうをもつて、海邊やお山に、おひつこしをするのさ。

皆

なアるほご！

蟹一

ねえ、もう少しそばにいつて、あのキャンプを、みようよ。

蟹五

あぶなかないかね？

蟹一

なアに、大丈夫だよ、お山や海や、神様のお造りになつた自然をすきな子供たちは、大い

皆

いよい子供たちだつて、母さんがいつたもの、さ、ゆかう。

皆

ゆかう！

皆又行進をはじめます。蟹一が、又見つめました。

蟹一 おや、おや？

蟹二 なに？

蟹三 なアに？

蟹四 なにがなアに？

蟹五 なにをみたの？

蟹一 ほらね、お家のそばの松の木に、何か書いてあるよ、なんと書いてあるのかしら？

蟹二 むにや〜。

蟹三 むにやら。

蟹四 むにや〜。

蟹五 むにやらとなにが、かいてあるのかしら？

上の方で、雀の聲です。(雀は姿を見せなくても差支ありません)

雀 ちゆんちゆくりん、かにさんたち、おそろひで——

蟹一 誰かと思つたら雀さんか、何をにこ〜してゐるの？

雀 うれしいのよ。あのお家みた？あのカャンプの子供たち、とてもいゝ子供たちよ。私、つ

蟹一

いさきほどね、何かごちさうおちてないかなつと、ちつとばかりねぼけて、あそこのそばをとんでるとね。かはいゝおかほが、笑つてるの、お手に一ぱい、私の大好物をつけてね。さういへば、あの人間の子供の手は、あなた方に、よくにててよ。たくさん、あなたがたの足のやうなものが、によき〜でて——

僕たちの足ににてる？そいで君、その手から、ごちさうに、なつたの？ねえ、雀さん、あの松の木に、何かかいてあるだろ、なんとかいてあるか、君しらないの？

しつてゐますとも、實は、それをみんなに、知らせようと思つて來たのよ。

ちア教へてよ。

雀

あれはねえ蟹さんたち、あなた方のお家のことが、書いてあるの？

蟹五

僕たちのお家？

蟹一

ええ、かう書いてあるの、「この砂濱に、丸くぼつぼつ穴のあいたところは、蟹のお家で

すから、ふまないやうに氣をつけて遊びませう」つて——

まアいゝ子供たちねえ。

カャンプパンザアイ！

皆 よい子のキャンプ、バンザアイ!

蟹一 あ、子供たちが、お砂の上に、丸く坐つたよ。

静かな(けれどもしめつぽくない)かるい祈りの曲がはじまる。

雀 あ、おつむをさげて、手をくんで、お祈りをしてゐるのよ。

蟹一 僕たちも、ここで、お祈りしようよ、みんなで——

みんなひざまづいて祈ります。曲がながれてゆきます。しばらくして、しづかに、みんな目をあいて、

蟹一 いゝ氣持だねえ。人間の子供たちも僕たちも、おんなじ主に、お祈りができたなんて——

雀 あ、ごらんなさいほら!

蟹一 なにを?

體操よ、あれは、分列式をやつてるのよ。

蟹一 あ、音楽も聞える、僕たちも、僕たちも、神様のよい子供たちのそばに、もつと近く行かうよ。そして僕たちの横あるき行進を、みてもらはうよ。

蟹二 さんせい。

蟹三 さんせい。

蟹四五 さんせい!

雀 では、私は、空から道案内、さアゆきませう。

蟹一 進め!

皆リズムにあはせて、愉快に進みます。

——をはり——

△これは、幼稚科位の子供さんのために、かいたのです。ながいセリフは、このころの子供たちのものではないので、リズム的に、くりかへすことにしました。

○凡てリズムにのつて演じて下さい。

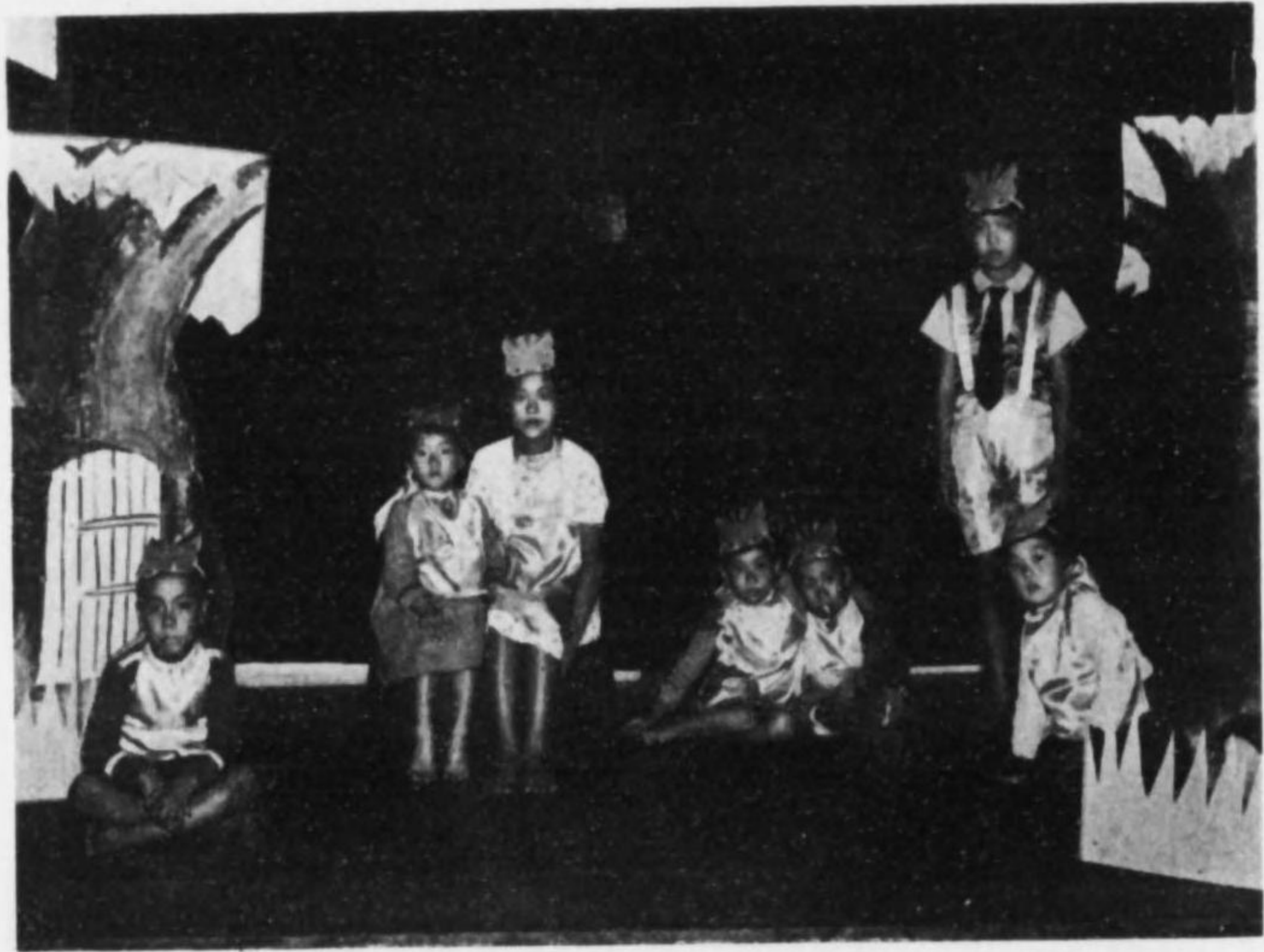
○雀の聲で上をむく時も、むだに上をむいては、いけません、舞踊風に。

お

ま

も

り



んめいたぶ「りもまみ」

出る人

母さんりす

子りすたち

父さんりす

ば め ん (一)

りすのお家です。母さんりすをかこんで、子りすたちが、おうたをうたつてゐます。

「小さい子供が眠る時」

かはい、星はめをさます

星がお目々をさましたら

天の使よ来てたもれ

まア、よくおぼえました、ほんとに上手に、できました。

母さん、こんど、私一人で歌ひたいわ、うたつてもいい？

あたしだつて——

ちア、二人で歌つてごらんなさい。いゝですか、一二の三、

母 子一 子二 母

子一と二は、たつて歌ひます。歌ひ終ると、みんな拍手します。

子三 僕お話がいゝな、お話しきたいな。

子皆 お話してよ、母さん。

母 ちアお話しませうね、今日は、人間さんのお話をさせう。昔昔、その昔、ユダヤといふお國に、エリア様といふ神様のお言葉をお話なさる、偉い方がありました。この正しいエリア様を、悪者共はさがしだして殺さうとしましたので、エリア様は、寂しい岩ばかりの岩山におかくれになりました。あちらをむいても、こちらをむいても、岩ばかり、食べものがないで困つてゐらつしやると、ほらあのかあかあかあからすさんが、神様のお言ひつけで、朝も晩も、パンをお口にくわへてとんで来て、このエリア様をおたすけしましたとさ、神様が――

父さんりすが、いばつて出て来て、

父 やれ、やれ、又神様の話かね、いつもいつも、お歌やお話ばかりしてたんぢやア、子供たちは、私のやうな、立派な一人前のりすには、なれないぞ、さア子供たちや、今日は、父さんについておいで――

子三

どこにゆくのだ、父さん？

父

お山に、ゆくのだ、春も終ればさくらんぼ、秋はどんぐり、くるみ、どうしたらおいしいえものを、人よりたくさんとられるか、今日は父さんが、それを、教へてやらう。

子四

昨日たべたどんぐりは、おいしかったなア！

子五

あんなの、僕たちにも、とられるのお父さん？

父

とられなくてさ、いくつもいくつもとれるんだ！

子三

うれしいなアゆかうよ。

子二

でも、かりうどつて、こはい人間がくるんでせう。

父

よむしめ、そんなことに、びくついてゐたら、一人前のりすにはなれないぞ、たまに來るよ、だがいつもいつも來るとはきまつてゐはしないさ、さアみんなたつた！

母

大丈夫でせうか、お父さん、子供たちや、もしか困つたことがあつたら、神様にお願ひするのだよ、神様が、たすけて下さるからね。

子一

母さん、わかつてよ、「天の使よ、來てたもれ」つていふのね。

母

え、ちア氣をつけて、いつてらつしやいねえ。

子皆 母さん、いつてまゐります。

子三 おみあげもつて來ます。

母 いゝかい、氣をつけてね、おや、ちよろ五さんの、エプロンのひもとけてるわ、一寸まつて（なほしてやつて）いつてらつしやい。

と見送ります。

ば め ん (二)

お山です。お山は秋です。父さんりすにつれられて、子りすたちは元氣よくでて來ます。

父 さアここだ、えもののあるのは、ごらん、はつばの間から、どんぐりがたくさんぞいでゐるだらう。

子三 のぞいでる、のぞいでる！

子四 お空ものぞいでる！

父 今日は、はじめだから、おちてくるえものをひらふおけいをするのだ、父さんが、この木のぼつておとすから、いゝかね、うんとどつさりひらふんだ。

子皆 うれしいなア早くおとしてよ！

父さんりすは、見えなくなります。木にのぼつたのです。

子五 たくさんひろつて、どんぐりがポケットに一ぱいになつたらどうしやう、何にいれようかなア！

子一 いゝことがあるわ、はつばで、おかごを造るの、そして母さんのおみやげにするのよ。

子二 あつ父さんが、あんなたかい木にのぼつたわ、おつこちないかしら？ かりうどこないかしらん？

子三 よはむしだなア！

父 いゝかい、おとすよ！

皆 はやく、おとしてよ、あつ、おちたぞ、おちたぞ！

子一 一つひろつた、

子三 二つ三つ、たくさんおちるな、まるでどんぐりのお雨だ！

と皆々はしやいで、ひろひます。

子一 あれ、ちよろ三さんは、まだ、たつた三つしかひろはないの、私もう、八つよ、なアんだお口にくつついてるわ、ひろつちやたべてるのね、ぢア私も、たべよつと！

鐵砲の音、皆々一つところに、ちぢこまります。

子一 あつ、鐵砲だ！

子二 こはいよ、お父ちゃん！

父 しつ、しづかに、聲をたてると、かりうどに、どこにゐるかわかるぞ！

子一 へ天の使ひよ來てたもれ！

木からおりた父も皆としづかにひざまづいて上をあほいで、

皆 へ天の使ひよ來てたもれ！

母さんりすが、かけつけて來て

母 ああ、子供たちや、よかつた！ 母さん、どんなに、心配したことだらう。お前たちのいつ

たお山で鐵砲の音がしたので、母さんは夢中でここまでかけて來たの、でも、よかつたわ、

かりうどは向ふの方へいつてしまつたのよ、神様が、ふせいで下さつたのよ。

子一 母さん、私たち、神様にお祈りしたの。

子三 さうよ母さん、みんなだね。

母 よかつたわね、ほんとによかつたわ！

父 なにしろ、あぶないところをたすかつた。今日は子供たちと一しよだつたんで、全くおち

けついたよ、さ、もうお家に歸らう、そして母さんから、又神様のお話をお聞さ——

歌のリズムのうちに、みんなうちつれて入ります。

け

ん

こ

る

る

てる人

母さん蛙

青子蛙

白子蛙

灰子蛙

はめん

蛙さんたちのお家です。蛙さんたちは、冬の永い眠につく前です。皆お寝衣をきて、白子蛙さんは、寝臺の上にごろんで、葉っぱの御本をよんでるし、青子蛙さんは、寝臺に腰掛けて、ぼんやり何か考へてゐます。おうたで幕を開きます。

ねんねしませう

ねんころろ

春にや野山に

花がさくよ

花がさくまで

ねんころろ

母さん蛙がでて来ます。

母さん さあ、そろそろ、おねんねしませう。おや、青さん何をそんなに考へこんでるの？

青子蛙 僕ね、世の中つて、おかしいもんだなつてね、考へてゐるの、

母さん どうしてまた、そんなこと考へだしたの？

青子蛙 だつて僕たち蛙は、今から永い間、冬中眠るんでせう。ね、いつごろ、お目々をさますの？

母さん 寒い寒い冬の間眠つて、野山にお花の開く春に、お目をさますのよ。

青子蛙 すい分ながい間、眠るんだねえ、をかしいね、どちらがをかしいのかねえ、

母さん 何が？

青子蛙 だつて母さん、木の上のお歌のうまい雀さんたちは、毎朝おきて毎晩寝るんだつて、でな

いとしいお聲がでないんだつて——

灰子蛙 母さん、お庭で、ぶち犬さんがいつたよ、冬中眠るなんてをかしいなアつて——

母さん ぼうやたちや、世の中のこと、色々變つてゐるのよ。寝ることにしたつて、雀さんや犬

さんのやうに、朝おきて夜ねる生物もあれば、梟さんのやうに、晝ねて夜おきる生物もあ

るし、私たちやかめさんみたいに、冬中眠りつづけて、春目をさますものもあるしね、自分から違つたものをみれば、をかしいと思ふけど、ほんとは、ちつともをかしいことないのよ。みんなお造りなされた神様がなさるのである。をかしいわけがないでせう。

青子蛙 うん、さうだね、(あくびして)あ、あ、ねむたくなつた、おねどこにいつてもいゝ？

母さん いゝともさ、でもお眠りする前に、みんなで神様に、お祈りませうね、あら、白ちやん

は？

灰子蛙 一寸、ポストまで。

母さん ポスト？

青子蛙 お山のふもとの、もしもしかめさんに、冬のさやうならを忘れたから、お葉書をだしにいつたの。

白子蛙さんが、でて来ます。

白子蛙 ただいま、母さん、大事なさやうならを忘れたもんで——

母さん あら、さういへば、母さんも忘れるところだつたわ。

灰子蛙 なアに？

母さん 御門に、はり紙をするのをね。

青子蛙 なんとはりがみするの？

母さん (紙に書きながら) 「春のお花の開くまで、私達は眠ります。御用の方は、それまで、お待ち下さい」つて、ほうら書けました。はつて来るから一寸まつててね。

母さん 母さん蛙は、紙をもつて入つて、御門にはりつけて歸つて来ます。

母さん おまちどうさま、これですつかり、御用がすみしました。では、お祈りませうね。お目をとちて——よろしいか——

青子蛙 灰ちゃん、目をあいてるよ、母さん——

母さん こまつた子、あなたのお目があいてるから灰ちゃんのが見えるのよ、さアさ、いゝ子さんみんなきれいに目をとちて、それでよろしい。おいのりよ。——イエスさま。今までのしく私達を、お守り下さいまして、お禮いたします。これから私共に、冬の永いお眠りを下さいますことを、ありがたうございます。どうかぼうやたちに、よい子のお夢を下さいませ。そして春になつたら、野山にお花がさくころに、又元氣よくおこして下さいませ、アーメン。

皆 アーメン。

母さん ぢや、おやすみなさい。

白子蛙 おやすみなさい。

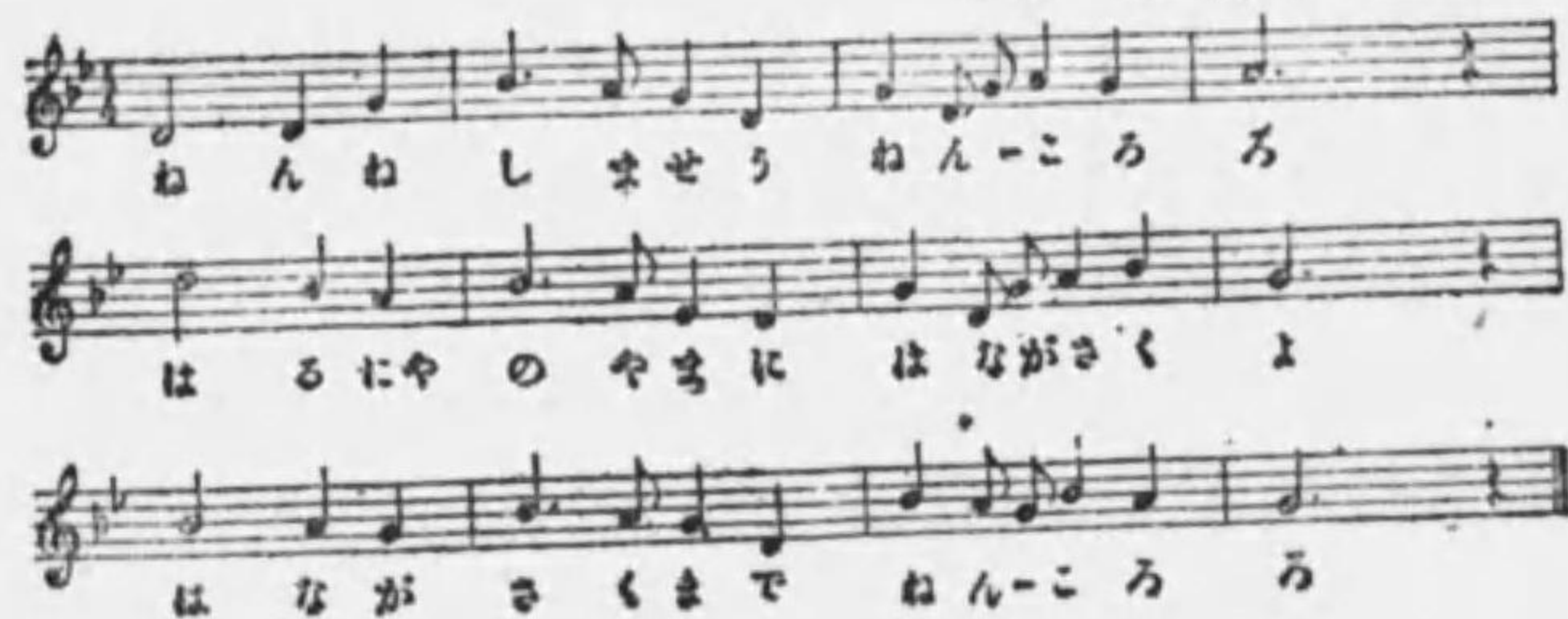
皆 おやすみなさい。

青子蛙 母さんは、まだ？

母さん ええ、もうすぐに。

母さん蛙は、子蛙たちのおふとんを、かけなほしてやりながら、暮あきの時のお歌を、うたひます。歌はかげで、にぎやかに、歌つてもよいと思ひます。

作曲 石黒つぎ子



き
か
へ
つ
の
葉

出る人

毛虫の青

毛虫の白

雲雀

毛虫の赤んぼ五六人

場面

舞臺一ぱいを、キャベツの葉にみたてます。ここは毛虫青の住居です。奥に蝶々の卵が、五つ六つ見えます。毛虫の青が、歌ひながら卵のまはりをまはります。

「ぼうやはよい子だ ねんねしな

ぼうやのかかさま どこへいた

なないろお空そらの にじのはし

そのはしこえて そらへいた

毛虫の白がでて來ます。

白

青虫あまむしさん、ごきげんよう

あれまア白虫さん、しばらくでしたねえ、どこかへ、いつてゐられたんですか？
ええ、牧場の向ふの大根畑に、出稼にいつてゐました。おや、あれは、何の卵ですか？
きいて下さいよ、白虫さん。もう大したことを、せおひこみましてね。あれは、蝶々の卵
です。

蝶々の卵？

え、もう秋をはる頃でした。金色の羽をした、蝶々が、私の前にとんで来て、いきなり「あなた、私の子供たちのうばになつて下さい」つて——

えつ、毛虫が蝶々のうばに？ で、あなたはそれを引うけたのですか？

引うけるの引うけないのと、いふひまなんか、ありアしないですよ、だつて、その蝶々は
その時、病氣のために死にかゝつてゐたのですもの。「私が死んでしまつたら、赤んぼの世
話をみてくれるものがありません。おとなしい毛虫さん、あなたどうか世話してやつて下
さい。いつになつたら卵はかへるかかわらないけれども、かへつたら少しづつ朝の露と花
の蜜を、のませて下さい。飛ぶおけいこもさせて下さい。」といつたかと思ふと、蝶々は
そのまゝ目をつぶつて、死んでゐたのですからねえ。

なるほど、さうでしたか、それは大變ですね。

ほんとに、私共這つてあるく毛虫風情に、あのきれいな蝶々の子供のお世話ができるかと
思ふと、心配で心配で、夜もろくろく眠られない位ですの。ねえ、白虫さん、あの卵から
は、もうすぐきれいな蝶々の子供がとびだすでせう。そしたら私、どういふ風に育てたら
よいか、一つちゑをかして下さいませんか。

困りましたねえ、なにしろさ、蝶々の子供の世話を、毛虫がするなんて話は、これまでき
いたことがありませんからね、さうさう、いくら私共毛虫風情の頭をひねつてみたつて、大
した考へもでなからうぢやありませんか、ここは一つ、だれか賢い生物に相談して、ちゑ
をかりたらば？

いゝところに、氣がついて下さいました。ではさつそく、だれかに相談させよう。でもだ
れに？ りんど畑に日向ぼつこに来る牡猫さんに？ あの人は、そりア自分勝手なのよ。
だから蝶々の卵がどうしたからつて、相談相手になつてはくれないし、そこいらにおさん
ぼにくる、むく犬さんは、あの通りそそつかしやでせう。もしお話ししたいからつてそばに
よんだら、あのしつぽで、卵をはらひおとさないともかぎらないし——

白

困りましたねえ、誰かいい方はないかしらん？

空で、雲雀の聲がします。

青

あ、あの歌は、雲雀さんだわ、あの方に相談しませう、あの方は、だアれもしらない高いお空におのぼりになるから、きつといろいろなことを御存じですよ。

白

そりアい、ではさつそく、あの方を、よんで来てあげませう。ほら、だんだん歌聲が、いつものもろこし畑におりて来ますよ、では私はこれで失禮します。

白は入ります。青は卵のまはりを、うれしさうにまはりながら、

青

うれしいこと！ ひばりさんから、よいちゑをかりて、ぼうやたちを、りつばに育てませう。なんてあたたかいお日様なこと！ お日様にあたためられて、早くかはいゝ蝶に、かへるのですよ。さア又、お歌をうたひませうねえ。

「ぼうやはよい子だ ねんねしな

ぼうやのかかさま どこへいた

なないろお空の にじのはし

そのはしこえて

……

雲雀がとんで来ます。

雲雀

毛虫の青さん、おそくなりました。

青

ようこそ、雲雀さん

雲雀

白虫さんからお話をうかがったので、さつそくお空へ上つてきいてきました。

青

まアお空へ上つて！ ありがたう、早く聞かせて下さいな！

雲雀

まづ第一に、この卵から赤んぼがでたら、何を食べさせたらよいか――

青

あの、朝の露だの花の蜜だのでせう？

雲雀

いゝえ、そんなものちやありません。もつとつまらないもの、あなたがいつでも手に入れられるものです。

青

私が、いつでも手に入れられるもの？ ではキャベツの葉とでもおつしやるの？

雲雀

ええ、さうです、キャベツの葉をたべさせるのです。

青

そんなもの食べさせたらいけないつて、なくなつたお母さんがいひました。

雲雀

なくなつたお母さんは、何にもしらなかつたのです。ねえ、毛虫さん、この卵の中から、

雲雀

何が生れると思ひます？

青 かはいらしい羽をした、蝶々の子供ですわ、金色の羽をした——それ共——
雲雀 ちがひます。毛虫が生れるのです。

青 えつ何ですつて？ 毛虫が！ あなたは私を、弱い虫だと思つて、ばかになさるのね、私は
雲雀 今まであなたを、賢い親切な方だとばかり思つてゐましたのに——

青 もう一つ、いひませう。これは別な話ですが、もうちきあなたは、蝶々になりますよ。

雲雀 えつ、私が蝶々に？ 雲雀さん、人からかふのもいゝかげんにして下さい。蝶々の卵が
毛虫になつたり、毛虫が蝶々になるなんて——

雲雀 そんなはずがないとおつしやるのは、あなたがキャベツの葉から一足も外にでたことがな
いからです。

青 うそです。私にだつて、出来ることと、出来ない事はわかります。私の青い長い體とた
くさんの足を見て下さい。その上で、羽がはへてとんだり、色のついた着物をきたりする
ことを、お話下さい、ばかな！

雲雀 毛虫さん、私がかいお空にのぼつて、いろんなふしぎなことを聞きながら歌ふ歌を、も
う一どお聞き下さい。天から来るものは信ずるものです。

青 それは何のことです？
雲雀 信仰です。

ひばりは入ります。卵からかへつたばかりの、かはいゝ毛虫たちが、むつくりむつくり、歌
ひながらです。

へむつくりむつくり

むつくりな

むつくりかへつて

むつくりな

毛虫の青は、これを見て、驚いてかけより

青 まあお前達は、私とおんなじ毛虫ぢやないか、おお、ぼうやたち、私はなんておばかさん
だつたんだらう。あのひばりさんのおつしやつたことが、ほんとうになつたのだ。一つの
ことがほんとうなら、その次のことだつてほんとうだわ。私もやがて、美しい、空とぶ
蝶々になる！ ぼうやたち、おききかえ、え？ 私が蝶々になるつてことを！ よ、うた
つておくれ、をどつておくれ！

父の看病

へむつくりむつくり

むつくりな

むつくりかへつて

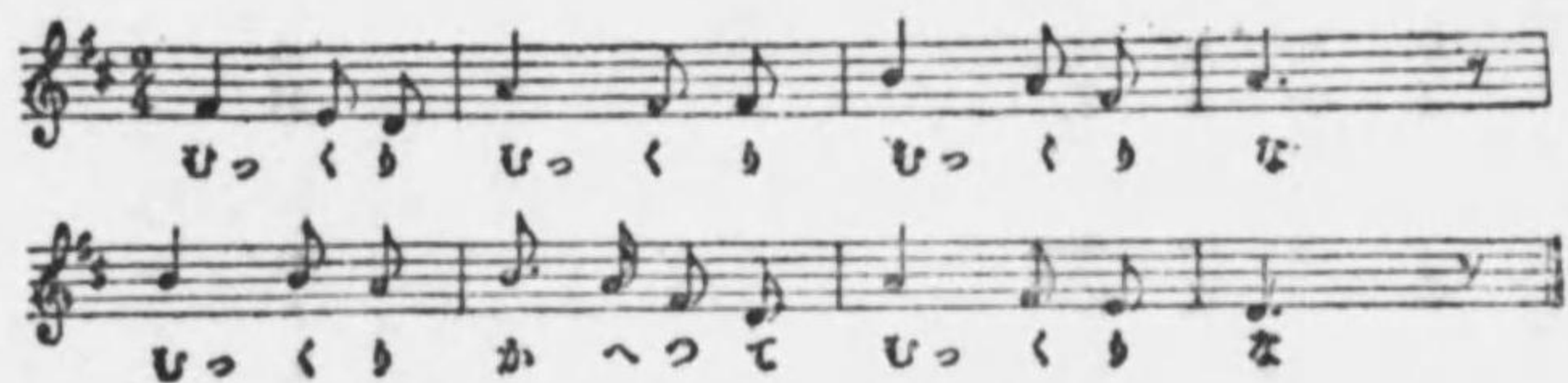
むつくりな

歌にあはせて、たのしくをどります、はじめの子守唄のメロディもしづかに、かぶさつて終ります。

△はじめの子守唄は、地方地方で唄はれる子守唄のふしで歌つて下さい。

△むつくりなは、かんたんに曲をつけてみましたが、みなさんで好きな風にうたつて下さい。

△赤んぼ毛虫が、むつくりむつくりでるところは、はじめ卵から一寸顔をだし、次に體半分あらはし、こんどは立上るといふ風に出てくる。でるときには、二つの手をのばして、前の人の肩におき、列になつて、むつくりむつくり這ふ感じをだしたら面白いでせう。



人物

シシロ

雑事婦

看護婦

病人（これはあるやうにみせかけて装置してよい）

醫者

シシロの父とそのほか

場面（一）

イタリーの病院。夜、

上手廊下、残り全部を病室としての断面。廊下と病室に、通ずるドア。廊下は看護婦のメ
テイション。事務用机、椅子二三脚机上には用具など。

夜の灯りの下で、看護婦が、患者の容態をノートしてゐる。隣りの病室には、顔中繻帯だら
けの病人が、苦しげに横はつてゐるのが、ぼんやりと見える。病室のベルがなる。看護婦は、
ペンを置いてその方に急いでゆく。やがて田舎風な粗末なりをしたシシロが、衣類の包を
片手にかかへて出て来る。

シシロ ここにも、だあれもゐねえだか、ごめん、ごめん！

雑事婦が、雑巾バケツをかゝへて、ぬれ手をふきながら出て、

雑事婦 何か用かね。

シシロ おらア父にあひてえんだ。

雑事婦 お父さん？ 入院してなさるのかね、受付で何號室だか聞いて來ましたかね。

シシロ 受付にだあれもゐねえから、廊下をまつすぐに來ただ。

雑事婦 名前は？

シシロ (名刺をわたして) これに書いてあるだ。

雑事婦 こんな名は、おぼえがないねえ、いつ頃入院なさつたのかね。

シシロ 五日ほどまへ——父はフランスに、でかせぎにいつてたんだけれど、五日前に、こちらの港へついたので。なつかしいお國の港へついたので、とんでもみんなのそばへ歸りたいのだが、残念にも舟の中で病魔におそはれて、入院すると知らせが來たんだ。ほんとならおつかあが看病に來るんだけど、赤ん坊はゐる、妹ははしかで熱をだしてゐるんで、おらが、おつかあのかはりに、父の看病に來ただ。もつと早く病院につくつもりだつたけれど、家か

雑事婦

ら十哩もあるいて來たし、おまけに雨はふる、こんなにおそくついてしまつただ。
まアさうかね。そりア大變だつたねえ。さうだ、思ひついたよ。五日前に入院した患者でフランスに出稼にいつてゐた人なら、ほらつい隣の病室さ。なにしろとても悪いんださうだよ。病院にかつがれて來た時は、もう意識不明でね、名前さへまだわかつてゐないんだつて——

シシロ 父が？ 父が、そんなに？ そんなにひどく悪い？

看護婦が、ステーションに、歸つて來る、

看護婦 どなたに會ひにいらしたの？

雑事婦 隣の病人の子供ですとさ。遠い處から、母親に代つて、ひとりで看病に來たんださうですよ。

シシロ 看護婦さん、父に會はせてよ。

看護婦 こちらにいらつしやい。

雑事婦は入る。看護婦は、病室のドアをあけて、シシロを導く、スナッチをねちると、病室があかるくなる。シシロは、ベットにとんでゆく。

シシロ 父、シシロだよ、お前のシシロでねえか。どうしたこつた、顔中糺帯だらけにして——苦

看護婦 しいだかね、目だけでもあけておくれよ。看護婦さん、父は何にもいへねえだかね？

シシロ お氣の毒ですけれど——

看護婦 病氣は、何だかね。

シシロ 丹毒なの、でもまだ望みがあるのよ。

看護婦 望がある、ちア父は、死ぬかもわかんねえのかね、父！父！死んぢやアいやだよ、いやだつてば、おらア母と、父の歸りを、どんなにまつただか、父、生きるだ、なア生きるだよ！

と泣く。

看護婦 ねえ、泣かないでね、あなたの涙をみると、よけい病人の氣がよくなるから！あなた

の名は、なんていふの

シシロ ——シシロ——

看護婦 さう、いゝ名ねえ、シシロさんが見えたから、病人さんはきつと元氣がでてよくなるわ、

ね、シシロさん、あなた、お父さんに、お薬あげられて？

シシロ うん、おらア母の代りに来ただもの、なんだつて、母に負けないやうにやるだ。

看護婦 ちアまだ、一寸早いけれど、あと十分もしたら、この水薬をあげててうだい、一しきりだ

けね、そしてそれがすんだらつかれたでせう。このお椅子を二つあはせて、にわか造りの

上等なベッドができたわ。これでお休みなさいね。この毛布をかけてね。私は夜中おきて

ゐますから、時々見に来てあげますよ。休む時には、あかりを暗くしてね。

シシロ ありがたう、看護婦さん！

看護婦 廊下にて、ステーションの机上で、ノートなどする。

シシロ (病人の手をとつて) 父、父の手はつめたいねえ。まるで氷のやうだよ。シシロの手であた

ためてあげやうねえ——ぬくいかね——母ちゃん、父が早くなほつて歸つてくるやうに

お祈りしてるからつていつたよ。きつと神様はお祈り聞いて下さるだ、きつとなほして下

さる。あ、そろそろ、お薬の時間だ。

薬をついで、のませながら、

シシロ にかいかね、苦しいかね、がまんしてのんで、早くなほつておくれよ、おらだつて、小つ

ちやい時、お薬きらいだつたねえ。だけど父の方つぽの手にある角砂糖がほしくてよ、そ

れにつられて、鼻をつまんでのんだつてが——ああ、もうあと少しの辛抱だ、お薬のんで

早くなほつて、家へかへるだ。

薬をのませ終つて、ふとんをかけ直しながら、

シシロ 父！ シシロが今夜そばにゐるだから、安心してとつくり休むだ、さうだ、あかりを消さう、
(トスキツチのところ歩みより窓から外をみて) きれいな星だ——母は、もうやすんだだ
か——

灯が暗くなる。

場面(二)

(一)と同じ。あれから四日のち。病人の蒼白な顔をめぐつて、醫師、看護婦、シシロがゐる。

醫師の廻診がすんだところで幕をあける。醫師は看護婦のさしだした、消毒用ガーゼで手をふく。

シシロ 先生！ 父をなほして——ねえ先生、父が、元氣で國へ歸るのを、母も子供たちも、どんなにまつてるだか——

醫師 君の心持は、よくわかるよ、ほんとに、りかうさうな子供だ、なんとかしてなほせるもの

看護婦 なら、なほしてやりたいんだが——

看護婦 ほんとに先生、この子供は、感心な子供ですわ。この子が看病に來ましてから、もう四五日にもなりますのに、夜もろくに眠らないで、大人も及ばないやうな行届いた看病を、いたしますの。

ドアがあいて、雑事婦が、手にりんごをもつて出て、廻診中なので驚ろいて引込む。

醫師 なアここ一日が、お父さんの山だ、この一日ぶじに過せるといいが、まアせいぜい氣をつけて、お父さんをなぐさめておやり——

シシロ

ベッドによりかゝつて泣く、醫師は入る。看護婦シシロを慰めて、

看護婦 シシロさん、氣をおとしたらだめよ。今日さへぶじなら、なほるとおつしやるんだから今日一日しつかりして看病しておあげなさいね。あなた、お晝もうすんだの？

シシロ インヤたべたくないんだ。

看護婦 そんなにしたら、こんどはあなたの體が、もたないぢやないの。
シシロ だけど、父にもしかのことがあつたら、母が、どんなに泣くかと思ふと——それに小つち

やい弟や妹たちのことを思ふと——むりに御飯たべても、砂かんでるやうだ。ねえ、看護婦さん、父に、もつとたんとお薬やつてもだめかねえ。

看護婦 ええ、お薬は、病人の體にあふやうにもつてあるんだから、多くても少くてもだめなよ。さうく、病人さんをあつためるやうにつて先生がおつしやつたから、私これから、ゆたんぼの用意をして来るわ。

看護婦 看護婦入る、雑事婦出て来て、

雑事婦 シシロさん、これ、見事なりんどだらう。患者さんにもらつたんだよ。お前さんにあげようと思つて、後生大事にもつて来たのさ。少々リゾールくさいけれど、をばさんの手は、いつだつてリゾールづけだからね、たべてごらん。おや、どうしたのさ、顔色が悪いよ、昨日は、父が大分樂さうだつて、うれしさうだつたに——

シシロ 父が、あけ方から、急に悪くなつただ——

雑事婦 急に悪く——先生は、なんとおつしやつたのかね

シシロ 今日が山だ、今日一日ぶじだつたら、よいがつて——

雑事婦 いやだねえ、全く——ほんとに、私がお醫者さんなら、もつとよくきく薬を調合するがね

え、まゝにならぬは、世の習ひつていふが、まつたく、まゝになりアしないねえ——私にも今頃生きてれば、丁度お前さん位な、男の子がゐたんだよ。かはいゝほつべをして、星のやうに澄んだ目をして、母ちやんてよつてくる時のかはいつたらしさ！(時計が三時を打つ)おや、もう三時か、調乳の時間だよ。チア、りんごをお上りよ。氣をおとさないで、しつかり看病しておやりよ。

雑事婦 入る。廊下の看護婦ステイションに、腕に繻帯をまきつけた患者が出て来る。シシロ

の父である、机でノートしてゐる他の看護婦に、

父 看護婦さん、いろいろお世話になりました。では、さやうなら。

看護二 御退院ですか、おめでたう。御大事になさいませ。

父 もう一人の看護婦さんは？

看護二 多分お隣りの病室でせう。およびませう。

とノックして、ドアをあける、父もついてゆく。

看護二 おや、ぬませんね、(シシロに)看護婦さんは？

シシロ、ドアの方を見て父の姿を見付け、いなづまのやうにかけだして——

シシロ 父!

父 シシロぢやないか。

シシロ 父!

父 シシロや、一體どうしたことだ、病院の人が、お前を別な人の處に案内したのだな。お母さんからは、シシロをよこしたからと通知があつたのに、お前が見えないので案じてゐたのだ、どうした譯だ、この間違ひは?

シシロ 父、おらアうれしい、父、おらアどんなに、心配しただか——

父 その心配なんか、犬にかまれるだ、父さんの病氣は、すつかりなほつた、こらこの通りだ。山へだつて海へだつてゆけるぞ、魚つり鬼狩り、なんでもおいでだ。さア歸らう、ほんといこりア又、一體どうした間違だ。其れにしても、ここであはれてよかつたなア。さア支度だ。今からたてば、宵のうちには家へつくぞ。

シシロ、いそぐと衣服などを包まうとたつてゆくが、やがて患者の方をチツト見て、どど包をもとへおく。

父 おや、どうしたんだ?

シシロ 父、すまねえけど、おらを残して歸つてくん。あはれな病人がおらをさがしてる。おらアこの人を、四日の間、父だと思つて看病しただ——この人にもしかのことがあつたら、

おらがゐなけりあ、この人はひとりで死んでゆかなければならなんねえだ。

父 (看護婦に)この人は誰です?

看護婦 やつぱりフランスから歸つて来た人で、あなたと同じ日に入院しました。ここに運ばれた時は、人事不省で、今だに名前も何もわからないのです。家族の者は、遠方にゐるのでせう、多分このお子さんを、身よりのものと、思つてゐるんでせう。

シシロ 父、ほら、病人が、おらに何かいひたがつてゐるだ、なア父、おれを残して歸つて、母をはやく安心させてくん。おらアもうしばらくここにゐて、この病人の世話をしてやるだ。

看護婦 ながい事は、ありません。

シシロ なア父!

父 残つておいで、お前は情け深い子だ。父さんにはすぎた子だ。これはお小使におし、では、お父さんは、お前のいふ通り歸つて母さんを安心させるから。ちきに歸つてくるんだよ。

いゝかね、體に氣をおつけよ。

シシロ さやうなら、父!

父親は少年をだいて、のち入る。シシロは病人のベットに歸る。

シシロ おや、唇がかはいてゐる。お水をお上りよ。氷を少と、お砂糖も入れとかうね。

と水をのませる。

シシロ おいしいだか、おいしいだかね、うんうん、よくわかるよ、えッ。なに? ああ、手を、なんだ、おらの手を握りたいのかね(手をだして)うれしさうに笑つた。涙をこぼして笑つた。うれしいだか。涙をふいてあげようね。

看護婦がゆたんぽをもつて出て来る。

看護婦 シシロさん、あなたは勇敢な情深い少年ね、すっかり聞いたわ、ほんとにこの病人はしあ

はせものねえ。

シシロ あのね、病人が、おらの手を握つてね——あつ、唇が、紫色だつ!

看護婦急いで、脈をとる。

看護婦 (あはて、) 大變だわ、お水を、唇に——私、先生をよんでくるわ。

看護婦急いで入る。シシロは病人の口をうるほしながら。

シシロ しつかりするだ、しつかりするだ。

看護婦醫師をともなつて来る。醫師、懐中電燈で目を照らし脈をみて、

醫師 だめだ! とうとう——

シシロ (聲をおとして) 死んぢまつただか——

看護婦 唇には、まだほゝ笑みが残つてゐます。シシロさんのやさしい看護を、よろこんで死んでいつたのです。

醫師 君は、やさしいけなげな子供だ、君の天職は終つた。お父さんには一足おくれたけれど、今夜中にお歸り、家は遠いかね?

看護婦 ここから十哩ほどある田舎ださうです。

醫師 そんなら、私の馬車でおくらせよう。別當にいひつけておくから。

シシロ ありがとうございます、先生。

醫師 こちらこそお禮をいひたい位だ。しあはせにお暮し、神様はきつと祝福を下さるだらう。君はそれ丈のねうちがあるのだ。(入りかけても一どふり返り) 馬車は、玄關にまたしてお

からね。

シシロは、支度をする、看護婦も手傳ふ。

看護婦 シシロさん、このお花を、もつてお歸りなさいな。あなたの心のやうに、いゝ香ひがしてよ。

と花瓶の花を束ねてわたす、

シシロ ありがたう。だけど、おいらのうちには遠いだ。もつてつてしほらすより、この人を飾つてやらうよ。

花をベツトにかざり、黙禱して、

シシロ 永のお別れだ、なア父!

包をもつて、

シシロ 看護婦さん、いろいろ、ありがたう。

看護婦は、涙ぐみつつ見送る。ヤがて、遠くに馬車の音、イタリア國歌を、男聲でハンミン
グするのが、太くほそく開えて幕。

△「クオレ」の父の看病を脚色した。

△劇のはじめに、日本の友邦イタリーの文學者のかいた、有名なクオレ（愛の學校）の中からとつて脚色
した劇であることを解説させてもよい。

善きサマリヤ人

人物

説明者――

盗人一

盗人二

盗人三

ユダヤ人

僕一

僕二

祭司

レビ人一

レビ人二

善きサマリヤ人

宿屋の亭主

場面

説明者

寂しい道路。遙かに向ふに、宿屋が見える。説明者がでて、

視よ、或教法師、立ちてイエスを試みていふ「師よわれ永遠の生命をつぐためには、何をなすべきか」イエス言ひたまふ。「律法に何と録したるか、汝いかに讀むか」答へていふ。「汝心を盡し精神を盡し、力を盡して、主たる汝の神を愛すべし。また己の如く、汝の隣を愛すべし」イエス言ひたまふ「汝の答は正し、之を行へ、然らば生くべし」彼己を義とせんとして、イエスに言ふ「わが隣とは、誰なるか」
イエス様は、この「隣人とは誰なるか」といふことについて、次の譬を、お語りになりました。

説明者は上手に退いて、譬の劇の終るまで見てゐる。三人の強盗は、木蔭からのぞいてのち、用心深く出て来る。

強盗一

兄弟、エルサレムからエリコへのこの街道を、すばらしい金目の商品をもつた、おいらの仲間の行列が通るんだとさ。

強盗二

ちア何かね、おいらも、その仲間入りしようつてのかね。

強盗一

にぶいね、お金持が、くるつてことさ。

強盗二

そいつあ、いゝぞ。でなにかい、すげえ金持かい？

強盗三

そいつの不正當な儲を、仲間みたいによ、おすそわけと願はうぜ、もしそいつが、うんといへばよ

強盗二

うんといはなきあ？

強盗一

(棒をみせて)こいつを、頭に、がんといはせるまでさ。

強盗二

承知だ！

強盗三

承知だ！

ふいに聞耳をたてる。そして用心深く樹木のかげに入る。ユダヤ人の商人と僕達がでてくる。僕たちは、大きな包をもつて、心配さうにでる。

ユダヤ

何を、くづくしてゐるんだ、何がこはいのかね。

僕一

(ふるへて) 御主人さま、こんな、寂しい道は、こりこりです。ここいらで、強盗が金持の旅人の持物を奪はうと、まぢかまへてゐるといふうはさを聞きました。

ユダヤ

(あたりを見廻して) ちアなほさら、道を急がなけりア、さア——

僕二

(輕蔑して) 強盗？ ふん、みつともないぞ、そんなに、がたがたふるへて、私等が、杖やこ

ん棒を、用意して来なかつたとでもいふのかい？

僕一 強盗だつて、そんなものもつてるさ。

僕二 弱虫め！主人は、私等に、エリコまでこの金目の商品しょうひんを運ぶために、光つた金貨きんくわをたんまりくれたぢやないか。

僕一 今になつてみれアそんなものに目をくらませれず、おとなしくエルサレムに居りアよかつたと思ふよ。(急に僕二の肩をつかんで)ほら、あそこで、何か、うごいてるよ。

僕二 はつはつはつは、はつばが、風にうごいてるやうよ。

と僕一の手をはらひのける。然し僕一は、依然としてふるへて、どつかりと坐つて、

僕一 お祈禱いのりを、となへようや。

とぶつぶつと唱へる。ユダヤ人がもどつて来て、ぶりぶり怒つて、

ユダヤ なにを、ぐすぐすしてゐるんだ！

僕二 いゝえ、御主人様ごしゆじんさま、こいつが、その――

ユダヤ ばかものめ！いそがないと、つかない間に、日が暮れるぢやないか。

樹木のかげから、すさまじい口笛と叫聲、僕一二は、持物をほうり出して矢のやうに逃げ入る。

ユダヤ まで、まで！おい、またないか、たくさんの金貨きんくわをやつたぢやないか、

僕達のほうり出した品物を、かきあつめる、強盗は、ユダヤ人を取りまいて、

強盗一 旦那だんな、お腹なかのすいた仲間を、おたすけ願ねがへませんかね。

ユダヤ (あたりを見上げて叫ぶ) たすけて――たすけて！

強盗三 聲こゑをたてたら、ためにならねえぞ、お前まへさんは、おいらの友人ゆうじんぢやないのかね、おいらのお腹なかの虫むしが、お前まへさんの香におひのいゝ酒さけをほしがつて大さはぎなんだ。

ユダヤ人の酒瓶をとりあげる、

ユダヤ (抵抗して) たすけて！ たすけて！ 強盗ごうとうだつ！

強盗一 頭あたまをぶて！

頭をぶつと、ユダヤ人はたふれる。

強盗一 (酒をのんで) うめえな！

強盗二 (ユダヤ人の荷物をあけて) ひやア！ すばらしいぞ！

強盗三 (ユダヤ人の上衣をぬがせて) めんどくせエな！

強盗達は、われがちにと、金目のものを、奪ひとりひつたくる。急に、はたと聞耳をたてて

それぞれ奪ひとつたものをもつて、逃げ入る。ユダヤ人は苦しきうに呻く。祭司が出て来てユダヤ人を見て、

祭司

おや、人が死んでゐるぞ。役所にとどけなけりアならない。だが證據人になれのなんのとめんどくさいな、ほつとかう、その中巡回の役人が、みつかるだらうから。たしかに死んでるぞ。

ユダヤ人は呻る。祭司はそれを聞いて急いで入る。二人のレビ人が出て来てそれをみて、

レビ一

全くこの道は、人殺しや強盗にやつつけられた人間の姿をみずにはすこせぬ道だ。殺生な！

レビ二

大體道の名からが悪いね。

レビ一

呻つてゐるよ、どうしたもんだらう、君のうちでも近けりアかついでゆくんだが——

レビ二

桑原、桑原！こんなものをつぎこんだら、おかみさんのヒステリーがかうじるだけさ。

レビ一

ねえ君、どう思ふ？こりア僕等が、干渉すべき問題ぢやないと思ふよ。

レビ二

ああ、さうく、向ふの宿屋の亭主に話して、つれに來させようぢやないか。

レビ一

よからう。

ユダヤ人は呻る、レビ人は急いで入る。サマリヤ人が、出て來る。

サマリ

おや、かはいさうに、(ユダヤ人をのぞきこんで)君、しつかりしたまへ(ユダヤ人呻る、サマリヤ人は、その頭を繻帯して、)私にもたれて、宿屋までゆきませう。

と立たせて、

ユダヤ

ああ、すつかり盗られた、にくい強盜め、文なしになつて了つた。

サマリ

死ぬより文なしの方が、ましぢやないですか。

やがて宿屋につく。

サマリ

(大きく)もしもし、もしもし！もう眠つてしまつたのかな、亭主、亭主！

宿屋の亭主が出てくる、唯事ならぬ物音、先着の宿泊人なる祭司レビ人、ほかの人も出て來る。

サマリ

この氣の毒な方を、エリコ街道で、みつけたのです。例の強盜の仕業に違ひないです。私が責任をもちますから、とにかく大急ぎでねがす所をこしらへて下さい。

亭主

それはくお氣の毒様で……どうぞこちらへ——

亭主とサマリヤ人と怪我人を伴つて奥に入る、祭司とレビ人が話し合ふ。

レビ

サマリヤ人は、柄になくでしやばりですね、こんなところに、つれて来なくても役人が見つけ次第何とかするでせうに！それともあいつは、あふほどの困った人に、親切ができる

とでも思つてゐるのでせうか。

祭司

怪我人はユダヤ人ぢやないですか、他國人にまで手を出すなんて、サマリヤ人のおせつか

いにはあきれますね。

話しながら入る。怪我人をねかして亭主とサマリヤ人が出て来る。

サマリ

(亭主に) 私たちはみんな兄弟です。天の父の子供です。亭主、私にかはつて、あの人を看病して下さい。ここにデナリ、二つもつてゐます。これをあなたにあげますから、これ以上お金がかかたら、歸り道に支拂ひます。

亭主

承知しました、へい、よろしゅうございます。

サマリヤ人は入る。

亭主

(その方を見て) サマリヤ人にしちやあ、大出来だ。

亭主奥に入り、説明者出づ。

説明者

イエス様は、この警話をなさつたあとで、かうおつしやいました。「汝いかに思ふか、祭司

レビ人、サマリヤ人、この三人のうち、いづれが強盗にあひし者の隣となりしぞ。」「なんぢもゆきてその如くせよ」

説明者入る。

△この劇は夕ぐれから、夜にかけての時間を表はすこと、サマリヤ人は棒につるした灯籠をさげてでる、又宿屋の主人は、ろふそくたてに、ろふそくをともし、ナイトガウンを引掛けて出る。

方

舟

出る人たち

ノア

ノアの妻

セム

ハム

ヤペテ

ノアの僕

村の衆

場面 (一)

森のなか。

上手よりに完成に近い方舟を見せる。方舟の中央に入口、それに登るための階段、方舟のよろしきところに窓。又方舟のまはりには、切り倒された大木、かんなくづ、大工道具など。ハムが仕事をしてゐる。ややあつて村人数人、上手下手から姿をあらはし、方舟をのぞきながら、ばかにしてうたふ。

「とてかんとてかん

とんちんかん

ノアのちぢさまとんちんかん

海のないのに舟造り

とてかんとてかん

とんちんかん

ハムは道具を、とりおとし、いらいらといどむ。

村人皆 わつはつはつは、はつはつは！

ノアが方舟の入口のドアを中からあけて出て

ノア

おお、村の衆ぢや（階段をおりてその方に歩みより）皆さん、神様のお言葉に、耳を傾けなさい。この世の悪を洗ひなすため、やがて四十日四十夜の間雨が降りますぞ、神様のお下しなされる洪水ぢや。御名は讃むべきかな。わしのやうなとるに足らぬものをも御心にとめたまうて、そのわざはひをのがれるための、方舟を造れとおほせ言——ほら、皆さんが、御覽の通りの方舟が、今日日中にはでき上ります。恐ろしい洪水の、地上に来る

日も、まちかぢや。なう村の衆！ 方舟に入る用意を、ととのへなさい。心を改めて、眞の神様に歸るのぢや。

「あれぢやあれぢやへ

とんちんかん

ノアのちぢさまあれぢやもの

なんでいはずにをらりようか

とてかんとてかん

とんちんかん

村人皆 あつはつはつは、わつはつは！

村人一 ノアのちぢさま、今日は、金の牡牛の神様のお祭りぢや、みんなで——

村人二 のんでうたつて、をどるのぢや。

村人三 眞の神様、あばよ！

村人皆 あつはつはつは、わつはつは！

とばかにしきつて入る。

ハム お父さん、私達は、いつまで村の人たちから笑はれるのを、がまんしなければならぬんです？

ノア ハムや、悪魔に、心を盗まれては、なりませぬぞ。なうハムや、お前には、神様のおなげきの聲が聞えませぬか。世の中はあの通りみだれた。眞は影を失つた。この世は一度洪水で洗はれなければならぬ。私達は、世の中にわづかでも残つてゐる、正しい人々を救はうとの、ありがたい神様の思召しの方舟、その光榮ある方舟を造らせていただいで居るのぢや。

ハム お父さん、僕は弱い人間です。その光榮は、僕にはあまりたかすぎます。
ノア ハムや、悪魔がな、お前をせめてゐるのぢやよ。負けぢやならない。父さんが、祈つてゐる、いや、神様が、お前のために戦つて下さる。

セム 方舟の中、窓から顔をのぞかせて、

セム お父さん、あかり窓は、一キユビトでしたね、それをどこにつけるのです？

ノア セムや、舟の眞中の、天井にだよ、あかりを充分うけられるやうにな。

ヤベテ 瀝青の包を、持つて出て来る。

ヤベテ お父さん、唯今歸りました。

ノア おお、ヤベテか、お歸り、御苦勞だつたね。瀝青は用立ててくれたかね？

ヤベテ ええ、ありつたけくれました。ねえお父さん、遠い町なのに、あそこの人まで、方舟のこ

ノア とを知つてゐましたよ。
で何かね、お前その方に、方舟がもうぢきでき上りますからおのり下さい。神様が洪水を

おくだしなされて、悪に染まつたこの世の中をお洗ひになるとのおほせ言です、とお傳へ

ヤベテ したかね。
ええ、お父さんのお言付どほりに——でもあの人は、手前共は、ただもうもうけさせてい

ノア ただければその方が結構だつて——

よしよし、それを話したのだね、それを話すには、勇氣がある。お前を強くなさつたのは

神様だよ、さ、その、瀝青をお見せ。

ヤベテ はい、これです。
包をあけてみながら、

ノア おお、これはこれは、上等ぢや、これをぬれば、水ももらさぬといふものぢや。それ、も

う、殆んど舟もでき上つた。残つてゐるのは、その漚青をぬるばかりぢや。お臺からは、女共も手傳はせて、漚青をぬるとしよう。神様のお言葉のなるのも、もうまちかぢや。

ノアの妻と女ども、お辨當などをもつて出て来る。

妻 おや、ヤベテや、案外早く歸れましたね。首尾よくありましたかえ？

ヤベテ ええ、お母さん。

妻 そりア何より、ほんとに早いもの、舟ももうでき上りましたねえ。みんなで、心をあはせて仕事をしたのではかどりましたね、お父さん！

ノア みんな神様のおめぐみぢや。

妻 ほんにねえ。

セム、窓から首をだして、のぞいて、段をおりて来る。

セム あ、お母さん、お辨當ですか、お辨當をみたら、急にお腹の虫が、さはぎだしちやつた。はつはつはつは、現金なお腹の虫だねえ、さアさ、ハムやヤベテや、おひるにませう。

皆々寄る。

ノア 神様のお恵みを、感謝しませう！

一同ひざまづく、ハレルヤコーラスかすかにおこる。祈り終れば、音楽は鮮かになる。

ノア

みんな、聞えるかね、あれが！ あれは、父さんがいつも聞く御約束がならうとする前の、

セム

天の音楽ぢや。聞えますよお父さん、あんなに、美しく、鮮やかに——あれこそ、天の歌だ、神様の勝利の歌だ！

音楽ハツキリと残つて幕。

場面(二)

初めは、水に浮んでゐる方舟の房の断面と、下手にいささかの空間とをあらはす。のち水がひいて、方舟が土についた時、その空間は、あらはれでた土地とする。方舟の房のよろしきところに窓と、側面に入口とドア。ハムが、いろいろと苦心しながら、祭壇の模型を造つてゐる。暫く間があつて、

聲

鳩だ、鳩だ！

ハム、仕事を止めて、窓をのぞく。ヤベテが出て来る。

ヤベ

ハムちゃん、こんなところにゐたのかい？

ハム うん僕、お父さんのために、これを造つてゐたんだ。ねえ、ヤベちゃん、あの鳩、にげてしまつたの？

ヤベ ちがふよ、お父さんが、はなしてやつたのさ、四十日四十夜といふ神様のお約束の洪水、くる日もくる日もふりつづいた、あの恐ろしい雨もあがつてから、かなりになるだらう。だから、この方舟が地につくのもう近いだらう、ひよつとしたら、遠くの地では水がひいてしまつて、土や石もかわいてゐるかもしれない。新芽も若葉も、ほころんでゐるかもしれない。もしさうだつたら、鳩は利口だから、きつと、何か土が乾いたしるしの若葉でも、くわへて歸つてくるかもしれないといつて、あの鳩をお父さんがはなしてやつたのさ。

ハム なアるほど、うまい考だなア、いい便りをもつて来てくれればいいが——、何しろうれしいや、もうちぎ、久しぶりで、あこがれの土がふめると思ふと——ねえ、ヤベちゃん、方舟に入らない前は、よくお父さんにわからずやをいつてたてついたらけれど、こんどこそはしんから神様を信じた。僕のこの心をあらはすために、そしてお父さんを喜ばせるために、僕、ちえをしぼつてこの祭壇の模型を造つたのさ、水が、土からひいたら、洗はれ

た新しい土がもり上つて来る。そしたら何より先に、この模型どほりの祭壇を造るよ。まはりには、にれの木も植ゑるんだ。

ヤベテ 僕、山が好きだ、野つばらが好きだ。山にも野にも、十年ぶりの春が一しよに來たやうに、若葉がもえて、花が香うて、鳥がうたふ。それを十分たのしみながら、僕は山羊や牛や家畜を追はう。そしてその祭壇に、すばらしい供物をささげよう。

セムがかけて来る。

セム ニユースだ、ニユースだ、あの人氣ものの麒麟に、かはい、麒麟の赤ちゃんが生れたよ。ヤベテ えつ麒麟の赤んぼ！ 麒麟の赤んぼが方舟の中で誕生するなんて、そリア全く特種だ！ 今日、きつといふことがあるぞ。

僕が、鳩をだいて、片手にかんらの若葉をもつてでてくる。

僕 あのだんなさまは、どちらで？

ハム ここには、ゐないけど——

ヤベテ あつ、かんらの若葉だ！

セム 鳩だ！ お父さん！ お母さん！

セム ノアとノアの妻がでてくる。他のものたちもついてくる。
お父さん、かんらんの若葉です。

ハム さきほどお放しになつた鳩が、くはへて来たのです。

僕 はい、あの窓の戸を、外からつつきますので、わしがはい、でてみましただ、はい。

ノア もう一ど、この目で、このみどりを——この若々しい葉の香ひをかがうとは——

妻 もう、向ふの土地では、ずつと前に水がひきましたのねえ、お父さん——そして、若葉が

光りの中で、日に日に成長して、ゐますねえ。

ノア 思ふと夢のやうだ、わしたちが、山で舟造りをしてゐたのは、つい昨日のやうに思へるが

——あの時、わしたちを笑つた人たちは、水にのまれてしまつた。さうして、神様の御言

葉を信じたわづかなものだけが、洪水からまもられて、もう一どこの御恵をみるなんて——

——あつ、あの聲は——

獸のほえる聲さうざうしくなる。

ハム 獸たちが、さはいでゐます。

妻 何か、かはつたことでも？

大きな動揺と音響。

皆 あつ！

セム 舟が、とまつた！

ハム 土についたのだ！

ヤペ お父さん、土です。ほらほら、水がひいて——

僕 舟が、浮べませねえだ、やれ土だよ土だ、獸たちや、ほえろ、ほえろ。おいらも、ほえろ

だ、土だ、土だ！

ノア 神様のお恵みぢや。

妻 ねえ、お前たち、ドアをあけて、あの梯子をお下し。

ハム 梯子は、天井につるしてあるぞ。

セム わつしよい梯子だ、わつしよい、わつしよい！

ハム 皆々大きはぎで、あらはれでた土に方舟から梯子をおろす。皆々土に下りる。

ノア はじめに、さうぢや、はじめに新しい土を踏んだところに、みんなひさまづくのぢや、

ヤペ テ ぞして、凡ての恵を——

皆

感謝かんしゃしませう。

とひさまづく。ハレルヤコーラスが、たかく鮮やかに聞える。

ノア

(祈るやうに、そして神の御言葉に答へるやうに) ——七色の橋——平和へいわのしるし——

虹が後方にあらはれる。

セム

あつ、あれは!

皆皆その方をながめ、おどろきとよるこびで、

ハム

天と地をつなぐ、美しい七色の橋だ。

ヤペテ

青い東の空、そのたかい空から、あんなにくつきりと、地上におろされた橋!

セム

お父さん、ごらんなさい、そこぢやない、ほら向ふです。何をいつまでも、ぼんやりと聞

きいつてゐらつしやるんですか?

ノア

うれしい神様のお約束の御言葉を、きいてゐたのぢや。さうだ、あれこそ、虹だ、神様が

再び地上に、あのやうな洪水を、下したまはぬとの、御約束のしるし、平和のしるしなの

ぢや

ハム

平和のしるし!

皆

御約束のしるし、虹! ハレルヤ!

コーラスいよいよ鮮かに残つて暮。

△虹は、薄紗の布を形のやうに切り、色をつけて、針金で、カーブしてあらはす。照明で、美しくくだま
れたらよれと思ふ。

昭和十三年十月廿八日印刷
昭和十三年十一月四日發行

定價金壹圓

不許
複製

著者 石黒つぎ子

發行者 シ・エチ・エバンス

印刷者 小谷實

印刷所 東京市小石川區林町四一
太陽舎印刷株式會社
電話大塚五六七一

發行所

東京市麻布區材木町廿四番地
振替口座東京四一七四〇

聖公會出版社

Printed in Japan

童話の泉

譯よと藤加・編史女ンセンヤシ
錢十八圓一金・裝布華豪華美・附ナカ・版六四

最新アメリカ童話集！

特に選んだ幼年向のもの六十篇

幼稚園で大歓迎！

保母さんがたへ——園兒を楽しくほと系ます爲
お母様がたへ——愛兒の心をあかくする爲
先生がたへ——生徒を明かに育てる爲
子供さんたちへ——美しい夢の世界へ旅立つ爲

家庭で大好評！

新しくステキに面白いお話の種本

明朗教育の新讀本！

387
9

終

